

TAIPEI 台北

STORIES FROM THE CAPITAL

17 秋季号
2019

近場にある美しさ
五感で楽しむおすすめ台北ツアー

台北の音楽を感じる
五つのスポット

信仰を辿った先にあるご当地料理
大稻埕慈聖宮の台湾式ランチ
流行りのお店にはない良さを求めて
台北の老舗カフェ

芸術の秋



台北市政府観光傳播局 /
台北市觀光傳播局
Department of Information and
Tourism, Taipei City Government
☎ 1999 内線 7564
〒 台北市市府路 1 号 4 階

台湾桃園国際空港第一ターミナル 到着
ロビーのトラベルサービスセンター
Tourist Service Center at Arrival Lobby,
Taiwan Taoyuan International Airport
☎ (03)398-2194
〒 桃園市航站南路 9 号

台湾桃園国際空港第二ターミナル 到着
ロビーのトラベルサービスセンター
Tourist Service Center at Arrival Lobby,
Taiwan Taoyuan International Airport
☎ (03)398-3341
〒 桃園市航站南路 9 号

美國在臺協會 / アメリカ在台湾協会
American Institute in Taiwan
☎ (02)2162-2000
〒 台北市内湖区金湖路 100 號

遠企購物中心 /
遠企ショッピングセンター
Taipei Metro the Mall
☎ (02)2378-6666 内線 6580
〒 台北市敦化南路 2 段 203 号

國語日報語文中心 /
国語日報語学センター
Mandarin Daily News
(Language Center)
☎ (02)2341-8821
〒 台北市福州街 2 号

臺北市立美術館 / 台北市立美術館
Taipei Fine Arts Museum
☎ (02)2595-7656
〒 台北市中山北路 3 段 181 号

聖多福天主教堂 /
セントクリストファーカトリック教会
St. Christopher Catholic Church
☎ (02)2594-7914
〒 台北市中山北路 3 段 51 号

士林區公所 / 士林区役所
Shilin District Office
☎ (02)2882-6200 内線 8725
〒 台北市中正路 439 号 8 階

臺北士林劍潭活動中心 /
台北士林劍潭市民センター
Shilin Chientan Overseas
Youth Activity Center
☎ (02)2885-2151
〒 台北市中山北路 4 段 16 号

南港軟體工業園區 / 南港ソフトパーク
Nangang Software Park
☎ (02)2655-3093 内線 124
〒 台北市三重路 19-10 号 2 階

臺北美國學校 / 台北アメリカンスクール
Taipei American School
☎ (02)2873-9900
〒 台北市中山北路 6 段 800 号

國立中正紀念堂 / 国立中正記念堂
National Chiang Kai-shek
Memorial Hall
☎ (02)2343-1100
〒 台北市中山南路 21 号

台北當代藝術館 / 台北当代芸術館
Museum of Contemporary Art
(MOCA), Taipei
☎ (02)2552-3720
〒 台北市長安西路 39 号

市長官邸藝文沙龍 /
市長官邸アートサロン
Mayor's Residence Arts Salon
☎ (02)2396-9398
〒 台北市徐州路 46 号

臺北國際藝術村 / 台北国際芸術村
Taipei Artist Village
☎ (02)3393-7377
〒 台北市北平東路 7 号

台北二二八紀念館 / 台北二二八記念館
Taipei 228 Memorial Museum
☎ (02)2389-7228
〒 台北市凱達格蘭大道 3 号

交通部觀光局旅遊服務中心 /
交通部觀光局トラベルサービスセンター
Travel Service Center, Tourism Bureau,
M.O.T.C
☎ (02)2717-3737
〒 台北市敦化北路 240 号

光點台北 / 光点台北
SPOT-Taipei Film House
☎ (02)2778-2991
〒 台北市中山北路 2 段 18 号

臺北市政府市民服務組 /
台北市役所市民サービスカウンター
The public service group of
Taipei City Government
☎ (02)2720-8889 / 1999 内線 1000
〒 台北市市府路 1 号

士林官邸 / 士林官邸
Chiang Kai-shek Shilin
Official Residence
☎ (02)2883-6340
〒 台北市福林路 60 号

臺北市孔廟 / 台北市孔子廟
Taipei Confucius Temple
☎ (02)2592-3924
〒 台北市大龍街 275 号

亞典圖書公司 / 亜典書店
Art Land Book Co. Ltd.
☎ (02)2784-5166
〒 台北市仁愛路 3 段 122 号

松山文創園區 /
松山文化クリエイティブパーク
Songsshan Cultural and
Creative Park
☎ (02)2765-1388
〒 台北市光復南路 133 号

華山 1914 文化創意產業園區 /
華山 1914 文化クリエイティブパーク
Huashan 1914 Creative Park
☎ (02)2358-1914
〒 台北市八德路 1 段 1 号

國立臺灣博物館 / 国立台湾博物館
National Taiwan Museum
☎ (02)2382-2566
〒 台北市襄陽路 2 号

臺北市旅遊服務中心 /
台北市観光案内所
Visitor Information Centers in Taipei

MRT 各駅
All Stations of MRT Lines

伊是咖啡 / IS コーヒー
Is Coffee

摩斯漢堡 / モスバーガー
Mos Burger

誠品書店 / 誠品書店
eslite Bookstore

金石堂書店 / 金石堂書店
Kingstone Bookstore

【編集者の言葉】

台北で過ごす芸術の秋

近年、台北では芸術やアート分野の活動が盛んで、世界からも注目を集めています。そこで、《TAIPEI》秋号ではアート活動を取り上げている雑誌「The Big Issue Taiwan」の編集長・李取中さんに教えて頂いた台北のアート関連のスポットや五感で楽しめる台北のおすすめスポットを紹介しています。

他にも台北で行われる国際的なアートイベント「Nuit Blanche Taipei」の見どころや各都市の街中にある趣きを伝えるドイツの雑誌「Flaneur」が取り上げた台北の面白さも紹介しているので、ぜひお見逃しなく。

芸術や文化関連では、今の音楽の流行がわかる台北ライブハウス特集、台北の有名な書道家や注目を集めている若手イラストレーター、海外からストリートダンスのために台北に移住したB-boyのインタビュー記事を掲載しています。

伝統文化の方面では、台北で行われる秋の二大祭典「孔子廟の釈奠」と「艋舺青山王祭典」の歴史や伝統を深く掘り下げているほか、秋をゆったりと楽しめるように数十年に渡り台北で経営を続けてきた昔ながらのカフェも紹介しています。

秋の台北は芸術やアートに関連するイベントが数多く行われるので、文化体験には最良の時期と言えます。また、台北は新しく生まれた文化と伝統文化が混ざり合い、様々な分野のアーティストが無限の可能性を発揮しているできる場所でもあります。ぜひ、台北のアート活動に触れて、芸術の秋を楽しんでみてはいかがでしょうか。

VOL. **17**

秋季号

AUTUMN 2019

目次

4 イベントカレンダー

カバーストーリー

6 近場にある美しさ
五感で楽しむおすすめ台北ツアー

嗜む台北

14 夜通し開催される芸術祭
Nuit Blanche Taipei

18 小道の良さを知る
E. Ianeu を通して見る台北

22 台北の音楽を感じる五つのスポット

知る台北

28 伝統から伸びる新たな枝葉
台北孔子廟の祭典

32 地域全体で祝う
艋舺青山王祭典

継ぐ台北

37 書道の枠を超えて
伝統と現代を融合させる書道家徐永進

42 ペンを武器に
台北のイラストレーター Aee さんの対談

48 メジャーを目指して
台北のヒップホップダンスを支える
スペイン人 B-boy



TAIPEI 台北

STORIES FROM THE CAPITAL



味う台北

54 信仰を辿った先にあるご当地料理
大稻埕慈聖宮の台湾式ブランチ

58 流行りのお店にはない良さを求めて
台北の老舗カフェ

台湾国内	NT\$180 元	(普通郵便で発送)
香港、マカオ	NT\$540 元	(航空便で発送)
アジア太平洋地域	NT\$660 元	(航空便で発送)
ヨーロッパ/アメリカ/アフリカ地域	NT\$900 元	(航空便で発送)

TAIPEI 郵政割撥（郵便振替）での定期購読について：6 期
振替口座番号：16630048
振替口座名義：台北市観光伝播局

発行人 劉奕璽
編集長 謝佩君
副編集長 鄒佳穎
編集 林彦男 王彦云
整合行销 陳其睿 李炎欣
翻訳 下山敬之 吳婕如
カバー 写真：鄧毅駿 / デザイン：Taiwan Scene

台北市観光伝播局

住所 台北市市府路 1 号 4 階
Tel 1999 (台北市外からは 02-2720-8889)
内線 7564 または 2029
Fax (02)2720-5909
Email qa-yen@mail.taipei.gov.tw
ISSN 24137774
GPN 2010402343

デザイン MyTaiwanTour 飛亞旅行社股份有限公司

Tel (02)2365-3881

Fax (02)2365-6558



本誌に対するご意見、ご希望などがございましたら、是非、E-mail またはファックスにてお寄せください。

オンライン雑誌：

<https://www.travel.taipei/ja> > マルチメディア > 出版物 > TAIPEI



本誌は大豆インクを採用しています。

中華郵政台北雜字 第 1377 號
執照登記為雜誌交寄
本号定価 NT\$30 元

OCTOBER

2019 大稲埕国際芸術祭

10/01—10/31

大稲埕の文化と芸術保護に力を入れている大稲埕国際芸術祭ですが、5年目の今回は初めて「街を挙げてのキュレーション」という大胆なテーマと「話題のパフォーマンス」という企画で大稲埕の今を表現します。他にも1920年代を振り返る仮装パレード、大稲埕の独自性や特色を刺激する野外パフォーマンス、文化問題を議論する講演会など盛りだくさんの内容になっています。詳細はウェブサイト参照。

www.tttifa.com



2019 ニュイ・ブランシュ台北

10/05—10/06

今年で4年目を迎える国際アートイベント「ニュイ・ブランシュ(白夜祭)台北」が内湖、大直で開催されます。テーマは「二面性パレエ」で、アートを活用して台北市の二面性を表現します。10月5日の開幕式ではメディアアーティストやダンスチームの「Anarchy Dance Theatre」をお招きし、大規模なオープニングセレモニーを開催します。他にも期間中は公演やインスタレーションも行われます。詳細はウェブサイト参照。

nuitblanchetapei.info



SEPTEMBER

2019 台北ジャズフェスティバル

8/05—10/27

今年の台北ジャズフェスティバルは「スウィング(揺れる)」がテーマで、ジャズ界の巨匠恭碩良(ゴンシーリヤン)や張為智(ジャンウェイジュー)、日本のジャズバンドH ZETTRIOなどが参加します。開催場所は天母忠誠公園、松山文創園區、大安森林公園などの屋外会場で、ライブ以外にオープン・ジャム、プロの講義、ワークショップも開かれます。ジャズの活気を体験しつつ、大勢で楽しめるイベントです。詳細はウェブサイト参照。

jazz.festival.taipei/2019/



2019 台北ポエトリー・フェスティバル

9/21—10/06

今年の台北ポエトリー・フェスティバルは「キツツキと壁」がテーマで、台湾で盛り上がりを見せるLGBT平等運動を象徴しています。今回は日本の歌人小佐野弾氏を招きイベントについてお話を頂く以外に詩と歌声で人を傷つけつつも激励するドイツの詩人ウルフ・ビアマン氏もお招きしています。ぜひイベントに参加してキツツキのように文学の壁を壊しましょう。詳細はウェブサイト参照。

poetryfestival.taipei/2019/



2019 台北温泉祭り

10/31—11/04

今年の台北温泉祭りは、MRT 新北投駅、七星公園、北投公園などを中心に開催されます。前夜祭の10月31日は即興弾き語りの「流し」スター決定戦、11月1日の開幕式では野外シネマ、11月2日は大業路で日本の愛媛県松山市の伝統「鉢合わせ」と神輿のパレード、明華園の芝居、11月3日～4日は浴衣祭り、音楽フェス、マーケットが開かれます。ぜひ、賑やかな台北の温泉文化を体験しましょう。



2019 士林官邸菊花展

11/22—12/08

士林官邸で開催される菊花展は「楽しさは菊の中にある」をテーマに千輪咲や菊細工などの立体作品、大小の菊と音楽を組み合わせた作品などが披露されます。11月22日にアカペラの歌唱で幕が上がると、期間中は周辺のお店と提携したセールイベント、著名な声楽家簡文秀のコンサート、原住民による歌と踊りの演目などが楽しめます。美しい花と音楽で台北の秋を満喫しましょう。



2019 台湾 LGBT パレード TAIWAN PRIDE

10/26

台湾は2019年にアジア初の同性同士の結婚を合法化した国になったことで、今年のLGBTパレードは過去に類を見ないほど大規模な祭典となります。10月26日には「Together, Make Taiwan Better (共に手を取り台湾をより良く)」をテーマに、出発点の台北市政府広場でレインボーマーケットを開催します。パレードは台北のすべての主要観光スポットを通過し、最後は凱達格蘭大道に設置されたステージに戻り同性結婚元年を祝います。詳細はウェブサイトを参照。

www.taiwanpride.lgbt



2019 にぎやか関渡祭

10/26

関渡で開催されるにぎやか関渡祭は地域が一体となって芸術教育と地域文化の促進を行っています。今年はリアルなご当地文化を表現します。当日の朝は台北市北投区知行路で街を探索するイベントや関渡水岸公園広場で全天候型のマーケットが開催されます。関渡の美しい景色を楽しみながら地域文化を体験できるので、ぜひ参加してみてください。





近場にある美しさ： 五感で楽しむおすすめ台北ツアー

文 = Rick Charette 編集 = 下山敬之 写真 = Yenyi Lin, Taiwan Scene, 台北市政府文化局, 草率季

高い評価を受けている雑誌「The Big Issue Taiwan」の
編集長・李取中（リーチュージョン）さんがあなたを
聴覚、視覚、嗅覚、触覚、味覚の五感を使った台北ツアーに案内します。



森3 SUN SUN Museum は台北の住宅街にあり、芸術的な生活を近隣のコミュニティにもたらしめます。(写真 / Yenyi Lin)

李さんにはビジョンがあり、それを実現することが使命です。彼は地元の出版業界、慈善事業団体、芸術とデザイン業界から尊敬されています。その努力によって台北や台湾全体のコミュニティは日々拡大していて、彼の名前は「良き市民、

人付き合いのいい人」の同義語になりつつあります。

本誌は MRT 南京復興駅近くにある「森3 SUN SUN Museum」で李さんと対談し、彼のビジョンと使命についてお話を伺いました。コミュニティ構築は「The

Big Issue Taiwan」の事業におけるコアで、彼の夢は仲間たちの日常的な瞬間の中に「美しさ」という固有の要素を作り出すことだそうです。例えば森3 SUN SUN Museumのように李さんが支援するクリエイターが近隣のコミュニティに

美的な生活をもたらすこともその一つです。また、海外から来る旅行者に充実した旅行プランを提案するために、台北の個性がこの十数年でどう変化したか、そして台北の本来の特色を把握しようとしています。



大きな構想

李さんのビジョンを一言で表すなら、それは「コミュニティ」です。「大都市は巨大でせわしない生体構造をしています、人々の生活は原子的です」と彼は話します。私たちは普段隣人とさえ交流しないことから、空気中の原子のように忙しなく動きながらも何の繋がりもないのが現状です。そのため、李さんは出会った人たちを思いやる連帯感を台北や台湾全土で生み出したいと考えています。

李さんは台湾南西に位置し、台北よりも比較的静かな都市である台南で育ちました。そこには彼が見失った連帯感が残されています。プレッシャーの中を生き残った台北独自の特色には大きな可能性があるかと李さんは考えていて、「台北は他のアジアの都市と違い制限がなく、どんなことでもできます」と教えてくれました。

この「コミュニティ」の概念をさらに広げることで、地域社会にも人生の美しさをもたらすことが李さんの願いです。また、現代は物質主義という考え方によって、美しさや美的な感性が日々の生活から失われています。そのため、自然の美しさに触れようと登山をしたり、同じ価値観を持つ人たちが創り出した作品を見に博物館や劇場へ足を運びます。しかし、彼の願いは、生活圏の中で音楽や演劇、芸術作品に触れ、そうした体験が周囲の人たちに共有されるということです。李さんは人々が「聞く、見る、匂う、触れる、味わう」という行動から「美しさ」という固有の要素を作り出す方法を学ぶ手助けをしています。その一貫として人生を一つの芸術品ととらえたり、「コミュニティ」の世界観を受け入れる、周囲の人で人生に美しさを感じる人の世話をしています。

未来の使命

李さんは「The Big Issue Taiwan」をビジョン実現のために活用しています。この雑誌はジョンバード氏 (John Bird) とザ・ボディショップ (The Body Shop) の創業者アニータロディック (Anita Roddick)、ゴードンロディック (Gordon Roddick) 夫妻が共同で創刊したイギリスの雑誌の台湾版です。台湾在住の外国人作家を通じ、海外のライフスタイル、芸術、文化、デザイン、テクノロジー、ビジネスといった斬新なアイデアを台湾の読者に紹介しています。

雑誌のコンセプトである「地域社会、良き市民、人付き合いの良い人」に従い、販路開拓は主にホームレスや社会的弱者の人たちを雇い研修しています。総売上の半分は彼らによるもので、主に台北の MRT 駅付近で販売をしています。売り子は野球帽にグレーのバッグという格好で、黄色のベストも着ます。

李取中さんの「台北五感ツアー」

本誌は台北在住の駐在員や海外旅行者向けに旅行ガイドを作ってもらえないか李さんに依頼しました。おすすめのスポットや台北の特徴を「五感」を使って紹介してもらいましたので、ぜひ実際に訪れてみましょう。



大安森林公園で行われるジャズフェスティバルでは Jazz Supreme が演奏を披露します。(写真/台北市政府文化局)

HEARING 聞く

「まずは台北を拠点に幅広く活動し、非常に高い評価を得ている歌手・LEO 王(レオ・ワン)の音楽を体験しましょう。音楽は実際に聞かなければわからないので、そこは旅行の宿題です。なぜ「聴覚」から始めるかというと LEO 王の経歴と音楽には台湾の精神が要約されているからです。台湾の人々と同じく彼の音楽は自由です。クリエイティブな表現は地域によって型がありますが、台北にはそうした「偽り」のクリエイティビティがなく、自由で制限がないので自分の価値観にあったものが探せます」。

LEO 王は、無限の可能性を持つ台湾の芸術的創造性に感謝していて、「台湾にいることは非常に恵まれたことであり幸運なことです。アーティストとして作りたいと思ったものはどんなものでも創造していきます」とコメントしています。李さんは、人と文化的影響が交わる地理的な位置関係と辺境の地と見られていた過去、アメリカ西部のように強く個性的な精神と他人に対する寛容性を持っていたことが、現在の台湾人の個性につながっていると李さんは考えています。

「聞く」という現象は 10 年以上前にライブミュージックが屋内から屋外へと持ち出されたことで多くの人に受け入れられたと李さんは話します。中でも台湾最大の音楽イベント台北ジャズフェスティバルはおすすめです。メイン会場の一つである大安森林公園では、今年の 10 月 25 日から 27 日にかけてライブコンサートが開催されます。主催者側も恭碩良(ゴンシーリャン)や張為智(ジャンウェイジュー)などの国際的なミュージシャンと地域を組み合わせることで参加者を喜ばせようとしています。

SIGHT.....見る

「台北は数十年に渡り、都市再生運動の全国的なリーダーを担っていて、政府が建物の改装を支援し、文化の創造を事業とする企業が運営することで文化遺産の保存と地域の自立を促しています。特に大稻埕（ダーダオチェン）や迪化街（ディーホアジェ）にある大藝埕（ダーイーチェン）がおすすめスポットです」。

大藝埕ブランドの1つである小藝埕（シャオイーチェン）は、都市再生のために100年前の建物を改修したことで知られています。この建物はかつて、西洋の薬を輸入した台湾初の薬局でした。

最近、路上の小規模なアートをスペースに作品を並べることで、最新の現代アートやデザイン、考え方に触れようと地元の人たちが立ち寄ります。前述した森3 SUN SUN Museum もその例の一つです。

森3 SUN SUN Museum は、閑静な住宅街にある2軒の住宅を利用し、オープンコンセプトの展示スペースにしました。正面デザインは床から天井までガラス張りにし、日光と通りを歩く人を誘い込む設計になっています。展示される作品のテーマは縛りがなく、本誌執筆時点では蛾の美しさを探求した作品が展示されていて、今後は音楽が個人の生活にもたらす美しさを祝いたいというミュージシャンと提携予定です。

李さんと「The Big Issue Taiwan」は、今年の10月18日から20日に松山文創園區（ソンシャンウェンチュアンユエンチュウ）で開催される台北草率季（ツァオシュアージー）の支援も行っています。参加者するのはインディー出版社などの個人雑誌の製作者、アートギャラリー、アートグループなどで、展示スペースの約半数を海外企業が占めています。このイベントでは台湾の人たちに向けてたくさんの新しいアート作品やデザインフードが提供されます。



1
2

1. 小藝埕はかつて西洋の薬を輸入した台湾初の薬局があった100年前の建物を改修して作られました。
2. 草率季では台湾の人に向けて新しいアート作品やデザインフードが提供されます。（写真／草率季）



SMELL.....匂う

「どうすれば嗅覚を使って台北を知ることができるかと聞かれたら、伝統的な生鮮食品市場を思い浮かべます。世代を超えて少しずつ変化し、より高い衛生基準や明るい照明、社交辞令のある現在の市場に触れることができます。そこには食材や調理された食品と何世代にもわたって家族で経営されてきた屋台が並んでいます。特に私は東門市場（ドンメンシューチャン）によく行きます」。

日本時代（1895～1945）には不規則に広がる露店を管理するために、西門、南門、東門という3つの門の外側に市場が設置されました。中でも東門市場は昔ながらの香りを残した独特な街として発展しました。多くの観光客に印象を与えるのは、とれたての野菜や果物の新鮮な香りですが、海鮮のお店からは磯の香りが漂います。李さんは有名な御園坊（ユーエンファン）というお店を訪れ、パクチーと豚ひき肉で作った水餃子を注文します。水餃子は冷凍販売されており、煮た際のジューシーな肉汁の香りがたまらないそうです。

御園坊の水餃子はパクチーと豚ひき肉の他に特殊な食材を加えることで味に一層の深みを出しています。



李取中さんは小道をゆっくりと歩くことこそ、その街のことを知る最良の方法と考えています。

TOUCH.....触る

「私はよくジョギングをしますが、台北には魅力的な運動スペースがたくさんあり、特に大安公園や川沿いにつながる公園がおすすめです。コンクリートに足をつけて街に触れながら走ることで、その周辺のことがわかります」。

この十年あまり、台北は体系的歩道の拡張や舗装を行うことで、早朝と深夜の時間帯に静かな「都会の小道」を作ったと李さんは話します。ジョガーや長距離を歩く人たちは、そこに住む人たちが次の日の準備をしたり、仕事を終えて帰宅する姿や休憩をしている光景を見ることができます。

李さんのお気に入りルートは、「台北の肺」として知られている大安森林公園を回ることから始まり、その後は信義路（シンイールー）や仁愛路（レンアイルー）に沿って二二八和平公園に向かいます。そして、1919年に日本時代に建てられた總統府（ゾントンフー）を夜の美しさとともに眺めます。

速いペースで歩きたくないという人には、自転車やバイクを使ってこの独特な路地を探索するのがおすすめです。台北にはYouBikeという優れた公共レンタサイクルシステムがあり、あちこち移動するのに最適です。李さんは通常バイクで移動し、あちこち飛び込んでは、そこでお店を経営する人たちに話を聞くそうです。「この街の若い人たちは企業化することを拒み、結果的にオーナーが自ら経営する小規模のカフェ、ブティック、ギャラリーが増えました」と李さんは話します。街の持つエネルギーやユニークで芸術的なお店といった街の個性に触れるためにも、ゆっくりと街に「触れ」てみてください。

TASTE.....味わう

「熱炒（ラーチャオ）というお店は台湾の代表的な料理で、私たち台湾人が友人たちと集まる際に利用するシンプルなビアホールです。冷たいビールが注がれ、スタッフが炒め物をテーブルに運び始めると、気分も盛り上がり騒がしくなっていきます。台湾人は食材の新鮮さを強調しますが、鮮度や品質の高さを考えると、こうしたお店の価格は信じられないほど安いです」。

中でも李さんが特におすすめするお店は、國父紀念館（グォフージーニェングアン）近くにある小林海産（シャオリンハイツァン）です。新鮮な海の幸を専門に扱うお店で、熱炒のメニューは非常に幅広く、小エビの炒め物、カキとタマネギの炒めもの、豚ネックといった料理は、地元の人たちに友人や家族と一緒に食卓を囲み楽しむ機会を与えます。

李さんは他にもお気に入りのカフェでリラックスし、少し本を読んで、台北の人々の交流の美しさを観察するのが好きだと教えてくれました。また、台北でチェーン展開をしていない経営者たちは他に類を見ない味覚体験をさせようと努力しています。華山1914文化創意産業園區（ホァーシャンウェンホァチュアンイーツァンイェユエンチュウ）にある Trio Café はカフェ、バー、レストランが組み合わさったお店で、より美しさを求める人におすすめです。

最後に李さんは「訪れた人たちが忙しくも幸せを感じるのに十分なものが台北にはあると信じています。また、私たちは広い世界の中にある台北という小さなコミュニティについて学びたいという人を歓迎します」と話してくれました。T



熱炒は台湾人には欠かせない癒やしの料理で、台北の飲食文化の代表でもあります。

文 = 下山敬之 写真 = Nuit Blanche Taipei 2019

最近、世界各地で話題になっている「Nuit Blanche（ニュイ・ブランシュ）」という言葉を知っていますか？ Nuit Blancheは夜通し行われる芸術祭のことで、博物館や美術館、ギャラリーなどの芸術に関するイベントが日中の時間帯に限られていたことから、夜間でもこうした芸術に触れられるようにと開催されるようになりました。

台北では2016年から毎年「Nuit Blanche Taipei」を開催しています。Nuit Blancheはフランス語で「夜を徹す」という意味で、イベントには「夜通し行われる」、「無料参加」、「市民参加型であること」3つのコンセプトがあります。台北でのイベントは路上のスペースを使うことで、できるだけ自然な形で芸術作品や演出に触れてもらい、娯楽と芸術の垣根を取り除こうという狙いがあります。過去のイベントでは毎年20万人以上の人たちが参加し、2018年の最高人数は40万を超えました。これは路上で行われる芸術関連のイベントでは最多人数となります。

そんな人気イベントのNuit Blanche Taipeiですが、今年は10月5日（土）から開催されます。ここではイベントの見どころを紹介していくので、ぜひチェックしてください。

しかし、これらの場所は住宅街やオフィス街ではないため、サラリーマンが帰宅すると途端に空白地となります。そのため、生活の基盤である居住エリア、長時間滞在する仕事エリアのどちらとも異なる「第三のエリア」と言えます。

新興都市を舞台に

過去のイベントでは歴史や文化に関連する場所が開催地でしたが、今回の開催地はあえて新興開発エリアで大直（ダージー）と内湖（ネイフー）を選びました。

この2つのエリアはテクノロジー分野や経済発展の要所であり、台北の他のエリアと比べると文化や芸術方面はあまり開発されていません。大直と内湖はテクノロジー関連の企業が多く、たくさんさんのサラリーマンがいることから朝ごはんのお店やカフェ、レストラン、バーなどが数多く展開されています。

夜通し開催される芸術祭

Nuit Blanche Taipei

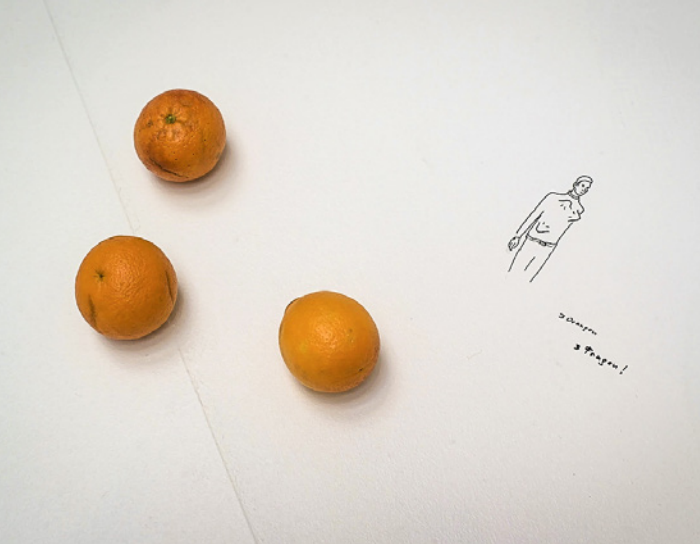


第三のエリアには人と人
とが出会う社交の場、限定
的（あるいは開放的）な公
共の場などの様々な機能が
あり、大直と内湖も真っ白
なキャンバスに自由に絵を
描くように、この大きな空
間を有効活用できればとい
う願いをもって選ばれまし
た。

また、このイベントを通
じて大直、内湖に住む人た
ちの間に地域の帰属感や尊
厳、アイデンティティが形
成されるといった影響を与
え、ひいては現代アートの
重要な概念である「人類み
な表現者」を体現すること
を目的としています。

都市の持つ多様な側 面を探る

今年のイベントのテーマ
は「二面性バレエ」ですが、
都市が持つ多様な側面を探
るために地理学者デイビット
・シーモン(David Seamon)
の提唱した「ボディ・バレエ
(Body Ballet)」や「プレイ



ス・バレエ (Place Ballet)」という概念が元になっています。

「ボディ・バレエ」は「個人」の体が空間を移動する点特徴です。私たちが日常的に行う動作は習慣によって引き起こされていますが、その動きは仕事や趣味、生活スタイル、宗教など人それぞれの異なる習慣によってリズムが生まれます。例えば決まった時間に起きて、決まった方法で出勤し、決まった時間に帰宅するなどです。この動作は踊りのバレエ同様、決まった動きとリズムがあることから「ボディ・バレエ」と名付けられました。

「プレイス・バレエ」とは朝起きて会社へ出勤するなどのボディ・バレエが、特定の場所で長期間繰り返され、特定のリズムが地域から社会全体に広がることを言います。それによって地域の特色が生まれ、人々の間にも生活リズムという

帰属感が生まれると言われています。

イベントにもこれらの概念を取り入れることで、大直と内湖のエリアに新たな「ボディ・バレエ」が生まれ、サラリーマンが出勤して帰宅する以外の「プレイス・バレエ」が発生することを期待しています。

これは多くの人たちに参加してもらい、これまでとは違う新たな「都市」の特色を探すという意味です。二面性というのは裏表のようない意味ではなく、台北が持つ様々な顔のことを指しています。大直と内湖はテクノロジーや商業発展の中心地で、こうした特徴も一つの台北の顔です。

大衆娯楽と芸術の垣根を取り除く

今年度の「Nuit Blanche Taipei」の芸術総監督は昨年引き続きニューヨークのファッション工科大学の修士号を持つ胡朝聖（フー

2 1
3 4

- 1 - 2. 《一分間の彫刻》は日常にありふれた道具と観客が一つとなり完成する作品です。
3. Nuit Blanche Taipei は形式にとらわれないため、ペットボトルさえ表現の素材となります。
4. 磯崎道佳氏が考案したビニールのドームは人々が一緒に装飾をすることで完成する参加型の作品です。

チャオシヨン）氏が担当します。

「Nuit Blanche Taipei」は市民参加型という特徴を最も重視していて、地域住民のイベント参加の促進、ローカルの魅力の産出、市民の一体感を培うといったプレイス・バレエの発展が目的の一つです。

胡総監督は多くの人が参加することで生活の中における芸術作品を生み出し、参加者たちが文化を形成する制作者になることを願っています。

その例として、日本人アーティストの磯崎道佳氏が企画したビニールで作るドームがあります。参加者たちはドームの中に入って好きな装飾を施すことができ、それによって一つの作品が出来上がるという仕組みです。参加者は芸術作品の制作に携わることで、全く違う角度から日常生活を観察することができま

す。他にもオーストリアのアーティスト、エルヴィン・グルム (Erwin Wurm) 氏が企画した「一分間の彫刻」という作品がMRT 劍南路駅の広場で公開されます。これはステージに予め木箱や本、果物、服など生活用品が設置されていて、観客は木箱の上の紙に書かれた指示に従い、特定の姿勢を

1 分間維持するという企画です。例えば、オレンジを3 つ頭の上に乗せる、二人で一着のセーターを着るなどの指示に従うことで一つの彫像作品が完成します。

これは「双方向芸術」と呼ばれるもので、生活の中にある物を使い、観客一人一人が観察をしたり、観察される対象となることで成立します。形の無いものから芸術の一部を生み出す手法です。

今年のNuit Blanche Taipei は大直と内湖の新たな特色を作り出す以外に、イベントの参加によって参加者と芸術の距離感が縮まり、「人類みな表現者」という現代アートの概念に一步でも近づくことが目的です。観光で訪れる人にとってもいつもと少し違った台北の雰囲気を感じられる絶好の機会なので、ぜひこの機会に台北を訪れ、芸術的な空気を味わってみて下さい。①



小道の良さを知る： Flaneurを通して見る台北

文 = Adam Hopkins 編集 = 下山敦之 写真 = Tomáš Benedikovič, Flaneur, Taiwan Scene

一本の小道を知ると町全体がわかります。このことを誰よりも理解している人は、雑誌 Flaneur (フランノイル) の編集長ファビアン・サウル (Fabian Saul) さんです。2013 年にベルリンで創刊されたインディペンデント紙の Flaneur は、一本の小道が持つ複数の面や複雑性、断片などの魅力を伝えるアート雑誌です。この雑誌は協調性があり衝動的なものだと型破りな雑誌、サウルさんは話します。Flaneur は様々な分野のアーティストと協力し、小道という小さな世界を普遍的に語っています。今回、本誌はサウルさんが研究をしている台北の宝蔵巖国際芸術村 (バオザンイェングオジーイシューツン) と発売間近の Flaneur 最新号についてお話を伺いました。

T どういった経緯でFlaneurを創刊されたのですか？

F Flaneurの創刊は6年前に行われた共同プロジェクトがきっかけで、最初はベルリンにある一本の小道に関する記事を執筆しました。その小道は私たちも馴染みのない町の一角にあり、まるで別の町のように感じました。私たちは執筆のためにそこを探索すると、地元の人たちが幼少期に通った道があり、そこを歩くことは彼らの記憶を辿ることを意味していました。そこから他の分野のアーティストたちを誘うことを決め、彼らの異なる観点を取り入れました。過去にはライブツィヒ、モントリオール、ローマ、アテネ、モスクワ、サンパウロ、そして台北の小道を巡っています。

T Flaneurのコンセプトを教えてください。

F 私たちは歴史性や社会



性、芸術的な美しさが積み重なった場所に興味があ
り、机上で考え事をするよりも実際にその場へ行き、発見することが好きです。数か月かけて各地を回り、協力してくれるアーティストと関係を築き、その道の「個々の良さ」と「包括的な良さ」を提起していきま
す。こうした活動は地域社会やその地域の語り手と強いつながりを持つことができます。

Flaneurは読者に素晴らしいスポットや景色を紹介する旅行雑誌ではありません。町を歩き、小道の隠れた良さやストーリーなど目には見えない面を発見し、読者に紹介しています。

T 8冊目の「Issue 8」ではなぜ台北をテーマに選んだのですか？

F 台北はもともと興味のある場所の一つでした。

テーマを選ぶ際には縁を大事にしていますが、今回は宝蔵巖国際芸術村からお

誘いを頂きました。
T 読者の方たちにどのよう
に台北を紹介しますか？

F 海外の読者の大半は、台北がどのような場所か予想できないと思います。台北がアジアで最も進歩している都市の一つであっても、ある場所では地図にさえ載らないからです。なので、台湾の素晴らしい協力者たちとともにこのプロジェクトを通じて台北の持つ魅力を紹介できればと考えています。

2 | 1

1. 8冊目となるFlaneurのテーマは台北で、海外の読者に向けて台北の特徴が紹介されています。
(写真 / Flaneur)
2. 雑誌Flaneurの編集長を務めるFabian Saulさん。
(写真 / Tomáš Benedikovič)



T 台北に対する印象はどうでしたか？実際に来て印象は変わりましたか？

F 台北のイメージといえば台北101でしたが、それだけでは台北の都市構造を正しく理解しているとは言えません。台北の中でも特に歴史が長いことで知られる万華（ワンホウ）区で時間を過ごすと、時代を感じさせるものがたくさんあり、その独自の発展期を遡ることが出来ます。万華区の北部には日本統治時代の都市計画の名残である基盤目状の通り、南部にはより系統的に発展した小さな路地と寺廟が残っていて、台湾内部と東南アジアからこの地に流入してきた文化の多様性を感じさせます。

T 台北に住むアーティストとして経験したことを教えてください。

F 宝蔵巖国際芸術村は台北での活動の起点となり、この都市とのつながりを作ってくれました。また、この

場所は台北の様々な面を見ることができ、多くのインスピレーションを受けました。中でもこの場所を残すというアーティストの役割は知っておく必要があります。この場所は高級化が進み廃墟になりかけたことで、芸術村が作られました。今では芸術村があることで、都市の開拓から免れています。他にもこの場所は台北における水インフラの基盤で、私たちが台北の川沿いを知るきっかけになりました。



T 台北の芸術分野における環境はベルリンや他の主要都市とどう違いますか？

F 台北は芸術分野における相関性が非常に強いです。私たちは台北に来てから異なる分野、社会性、年齢のグループを包括するネットワークを作り始めました。こうした密度が濃く、多様な分野が混在するネットワークは、ベルリンのような大規模で、多様な文化背景が混ざった場所では形成が困難です。台北はこうした



心地よい雰囲気もあって早く馴染むことができました。

T 旧市街の万華区を研究の対象に選べましたが、この地域についてどう思われますか？

F 万華区はこの街と水を結びつけていて、新店溪（シンディエンシー）という川も万華区の西側から流れて山々を縁取ります。そして海へ流れ込む前に淡水河に繋がり、過去には重要な貿易拠点の一つとなりました。今の万華区は台北の端っこという印象ですが、康定路（カンディンルー）や萬大路（ワンダールー）を歩くと万華区にある道の多くの方面が台北への入り口になっていることがわかります。この地域は目に見えない様々なものを提供していて、徐々に都市化が進んでいます。万華区を語ることは台北から消えようとしている場所について語るのと同じ話です。こうした話

は過去から続いています。が、現在や未来で確実に現実化していきます。

T 初めて台北旅行をする人におすすめの場所を3つ教えてください。また、台北の芸術に触れるにはどうするのがおすすめですか？

F 台北の中心部と対象的な大佳河濱（ダージャーフービン）公園に夕方に行くことがおすすめです。ここに来ることで広い視野で物事を捉えることができます。また、 龍山寺駅や艋舺エリアの小規模な夜市や南機場夜市（ナンジーチャンイエシー）はこの地域の文化や経済構造を知る上で欠かせないスポットです。

また、台北の芸術は一つの団体が作るのではなく、都市に住む人たちが共同で作り上げています。そのことをより深く理解するには台北のアーケードを歩いてみることです。天気が悪くなければ台北は非常に歩き

やすく、散策をすることでたくさんの方の魅力的な場所や芸術的なものを見つけることができます。**T**

3 | 1
2

1. 宝蔵巖国際芸術村は眷村文化や特殊な景観が残っていて、多くの観光客が訪れています。
2. 万華区にある康定路は Fabian さんが研究の対象として選んだ道の一つです。
3. 南機場夜市は万華区にある地元の夜市です。



台北の音楽を感じる 五つのスポット

文 = Joe Henley 編集 = 下山敬之 写真 = 河岸留言, 女巫店, The Wall, Revolver, Legacy, Bill Hamway, TS

音楽の中には各都市の独特な文化や特徴が反映されています。そのため、その都市に音楽やアーティストを育む環境的要素がなければ無味乾燥なものしか生まれなくなります。例えばボブディラン (Bob Dylan) の曲を聞けばニューヨークの黄金時代を思い浮かべ、スキッド・ロウ (Skid Row) のアルバムを聞けば彼が自由気ままに過ごしていた若かりし頃が思い浮かびます。台湾も董事長樂團 (ドンシュージャンユェトゥアン) の曲を聞くと、彼らが師大路 (シーダールー) にあったライブハウス地下社會 (ディーシャーシャーホイ) で歌っていた頃の情景が浮かびます。

一昔前、台北のライブハウスにはコピーバンドが溢れていました。しかし、1970 年後半になると校園民歌 (こんえんかきょく) という台湾人の民族意識をわき起こす音楽ジャンルが流行し、それまでの西洋音楽から一変し台湾独自の音楽が主流となりました。

1987 年に戒厳令が解かれたことで、1990 年代になると台湾の音楽や芸術分野は新たな幕を開けました。例えば SCUM というライブハウスは出演バンドに最低 1 曲はオリジナル曲を演奏するよう求めると、他のライブハウスも同様のルールを取り入れ始めました。また、音楽ジャンルもパンクやロック、メタルなど多様なスタイルが雨後の筍のように生まれ、創作の自由度も高くなりました。

それから数十年が経過した現在でも人々の音楽に対する情熱は変わらず、ライブハウスで様々な楽曲が演奏されています。そんな台北のライブハウスは大小様々で、それぞれに個性があり、毎晩素晴らしい音楽を提供してくれます。



シーメンフォーアンリョウイェン

西門河岸留言 & 公館河岸留言

ゴンダンフォーアンリョウイェン



公館にある台湾大学付近で2000年にオープンしたのが河岸留言というライブハウスです。当初は出演バンドのオーディションを行い、実力が認められなければステージに立てませんでした。こうした基準を設けることで若者たちは出演をするために毎日練習を頑張るようになりました。それから月日は流れ、現在ではオルタナティブやインディーズバンドなどの受け皿となっていて、毎週月曜の夜には誰でもステージに立てるオープンジャムナイトが開催されています。

2008年には西門町(シーメンディン)にあるレンガ造りの紅樓(ホンロウ)に支店ができました。公館支店よりも規模が大きく収容人数は最大で650人、台湾で主流なロックの雰囲気に合わせて機材の調整や演出が可能なことから国際コンサートホール以上に柔軟な対応ができると言われています。また、紅樓周辺はLGBTQの人たちに友好的な場所で、LGBTQ文化やインディーズ、特色のあるバーは台北に多様な文化をもたらしています。

河岸留言は完璧な設備を提供し、音楽が好きな人たちを楽しませています。(写真/上:TS, 中&下:河岸留言)



シーメンフォーアンリョウイェン
西門河岸留言



台北市万華区西寧南路177号



営業時間はライブ日程によって違います。



ゴンダンフォーアンリョウイェン
公館河岸留言



台北市中正区羅斯福路三段244巷2号



19:00-00:30

前述した地下社会は2013年に営業を終了しましたが、この場所はニューヨークにおけるCBGBと同じくインディーミュージックの聖地とも呼べる場所でした。現在、その役割は女巫店というライブハウスが担っています。ここは1996年にSCUMの後を引き継ぐ形でオープンしました。当初はロックやメタルが中心でしたが、そこからアンブラグドやインディーバンド、フォークバンドなども参入するようになっていきます。数多くのミュージシャンがこの場所で演奏を行ったことから、現在では台湾のインディーミュージックを代表する場所となっています。

また、ここは女性アーティストを積極的に支持しているという特徴があります。2階にある本屋「女書店（ニューシューディエン）」は台北におけるフェミニズム発祥の地とも呼ばれていて、女性の自由を広めようと力を尽くしています。店内の装飾には女性解放を象徴する目的で女性の下着が使用されています。以前は女性アーティストが立てるステージが少なかったことから女性に表現の場を提供し、結果的として陳綺貞（チェンチーゼン）、陳珊妮（チェンシャンニー）、安溥（アンプー）といった台湾やアジアで活躍する女性アーティストが誕生しました。

2011年に入ると女巫店は地下社会と同様に都市開発計画によって閉鎖の危機に陥りましたが、率先してフェミニズムなどの新しい思想や音楽を取り入れていたことで閉鎖を免れました。次の世代も同様にこの場所で女性ミュージシャンの歌を聞くことができます。



女巫店は女性アーティストが自由に表現できる場を提供していて、台湾の有名な女性アーティストの多くはかつてここで演奏をしていました。（写真／女巫店）



ニューウーディエン
女巫店



台北市大安区新生南路三段 56 巷 7 号



日 - 水 10 : 00 - 23 : 00 | 木 - 土 10 : 00 - 00 : 00



サ・ウォール

THE WALL



The Wall は世界各地のロックファンが訪れ、台北のロック魂を体験しています。(写真 / The Wall)

The Wall は 2003 年にオープンしたライブハウスで、メタルバンド閃靈樂團 (ソニック) のボーカルフレディリン (Freddy Lim) と董事長樂團のボーカル阿吉 (アージー) の 2 人によって発展しました。彼らは The Wall の運営をすると決めた際、様々なジャンルの音楽が演奏され、あらゆるバンドがオリジナルの曲を発表できる自由な場所を作りたいという理念がありました。

2000 年代半ば、The Wall は Freddy や阿吉と同じくロックやメタルを愛する若いバンドマンたちの憧れの場所でした。また、Bay Area Thrashers Exodus や Cannibal Corpse のような世界を代表するメタルバンドが台北初ライブを行ったり、収容人数 600 人のライブハウスが New York Magazine が選ぶ台北の 10 大観光スポットとして紹介されるほど注目を集めました。当時は入り口の螺旋階段を下りれば、一晩中台北のリアルなロックが楽しめる空間でした。

それから数年が経過し、The Wall の経営権はいくつかの人たちの手を巡ることになります。ただ、台湾のロックは依然として高い人気があり、現在でも海外のバンドの演奏を見ようとライブハウスの外に長い行列ができます。また、若いバンドマンたちも変わらずにステージに立つことを夢見ているので、かつて様々な有名バンドが演奏をしてきたように、今後も途切れることなく様々な音楽が響き続けるでしょう。



The Wall



台北市文山区羅斯福路四段 200 号



水 20 : 00 - 00 : 00 | 木 - 土 19:00 - 03:00 | 日 19:00 - 00:00 | 月火定休



リボルバー
REVOLVER

様々なジャンルの音楽が混ざり合う中心的なライブハウスはどこかと聞かれれば、Revolver 以外に考えられません。ここは中正紀念堂（ジョンジャンジーニェンタン）の近くにある 2 階建ての施設で、1 階にはバーがあり、2 階にはステージがあります。2010 年に 2 人のイギリス人によって設立されたこの場所は、週 7 日毎晩ライブが行われています。音楽のジャンルもロックをはじめ、メタル、パンク、ヒップホップ、エレクトロニック、エクスペリメンタルなど幅広く演奏されているのが特徴です。初期の地下社会と同じく、年齢や経験に関わらず自由な表現ができることから、この場所は台北の新しい音楽が発見できる場所とも言えます。

1 階部分の内装は特に決まったテーマなどがなく、様々なアート作品を用いることで、音楽のスタイルにも縛りがないことを表しています。そのため、店内の BGM も David Bowie や Jimi Hendrix といったロックから Carcass、Napalm Death のメタルなど様々な音楽が流れています。また、バーの後ろには「No Coldplay」という表示があり、これはこの場所が単純に流行を追いかける場所ではなく、新しいインディーズミュージックを推奨する場であることを示しています。

2 階のステージは 100 人ほど収容可能で、ここが満員になるときは新気鋭のアーティストが誕生する瞬間でもあります。世界にはたくさんの小型ライブハウスがありますが、どこも音響設備の問題に悩まされています。しかし、Revolver にはハイクオリティな PA システムと強固な設備機器があり、それを専門の音響スタッフが毎晩完璧に操作することで、スムーズに演奏が進行していきます。また、ここは数少ない外国人と台湾人が交流できる場所でもあり、ここに集まった各国の音楽好きたちが台北に様々な音楽を持ち込んでいます。



Revolver は週 7 日ずっとライブを行っていて、観光客も 1 階のバーを訪れます。(写真 / Revolver)



Revolver



台北市中正区羅斯福路一段 1-2 号



月 - 木 18 : 30 - 03 : 00 | 金 - 土 18 : 30 - 04 : 00 | 日 18 : 30 - 01 : 00



レガシー
LEGACY



Legacy は 1,200 人収容が可能で、数多くの海外アーティストがライブを行っています。(写真 / Legacy)

台北では長い間、中型のライブハウスがなかったことから、ある程度有名な海外アーティストが台北でライブをする際には、年季の入ったコンサートホールや学校の体育館を借りるしかありませんでした。しかし、こうした場所の収容力は千人ほどで、本格的なアジアツアーをするような規模アーティストには適しません。それから 2009 年になり、台北の華山 1914 文化創意産業園區に Legacy がオープンしたことで、大小どちらの規模でもライブやコンサートが行えるようになりました。

過去数年にわたり、Legacy は 1,200 人ほどを収容できるライブハウスとしてニュートラル・ミルク・ホテル (Neutral Milk Hotel)、ジーザス & メリーチェーン (The Jesus and Mary Chain)、ノーウェイヴというジャンルで有名な Swans といった国際的なバンドを迎えてきました。ここはかつて倉庫として利用されていた場所で、大きな敷地と外壁に植物のツタが這う独特の外観を持ったライブハウスです。また、設備面も充実していることからハイレベルなアーティストを台北に惹き付ける場所となっています。

現在の台北はライブが楽しめる最高の時期を迎えているといっても過言ではありません。音楽業界はアーティストたちの心の機微や気持ちの浮き沈みによって新たな音楽が生み出され発展してきましたが、台北は新しいアーティストを育てる家とも呼べる場所があり、それが都市の発展と進化にもつながっています。こうした環境で生まれる音楽をぜひ聞いてみて下さい。①



Legacy



台北市中正区八德路一段 1 号 (華山 1914 文化創意産業園區中 5A 館)



営業時間はライブ日程によって違います。



台北孔子廟の祭典

伝統から伸びる新たな枝葉

文||張盈華 編集||下山敬之 写真||趙守彦

孔子

9月28日は儒学の祖・孔子（こうし）の誕生日で、台湾では一年に一度の「教師の日」となっています。孔子は、人は教育によってどのようにもなるという意味の「有教無類」、能力や資質に応じて異なる教育を実施するという意味の「因材施教」などの思想を教育の模範として広めたことから、「至聖先師」という封号が贈られました。

教師の日は、この歴史上の偉大な教育者を偲び、そして師を尊び、道を重んじるという伝統の大切さを思い出させる機会になっています。





台北市孔子廟で執り行われる釈奠は一般の方も参加できます。

千年にわたる祭典 新旧共存

毎年、教師の日になると台北市孔子廟では孔子を祀る釈奠（せきてん）という祭典が行われます。孔子を祀る儀式は孔子の君主だった哀公（あいこう）が追悼のために始めたと言われていて、漢の時代には国を挙げての祭典となりました。現在の儀式の形式や「至聖先師孔子」という呼び名は清代に定着したものです。

台北市孔子廟は地域の名士の募金によって建造された。1930年から80年以上に渡り釈奠を開催してきましたが、近年では毎年2000人以上の参加者を集める大きなイベントになっています。

この人気の祭典の正式な手順は37項に及び、大別すると「神様をお迎えする」、「神様を祀る」、「神様をお送りする」という3つで

構成されています。祭典を執り行うのは孔子の嫡孫が担当する「奉祀官」、参列者を先導する「引贊」、祭典での曲目と舞踊の統制を担当する「楽長」、雅楽を演奏する「楽生」、佾舞（イーウ）を踊る「佾生」、その他を取り仕切る「禮生」などがいます。

祭典当日では孔子の位牌を祀る大成殿の前に、「丹墀（タンチ）」と呼ばれる大きな舞台を見ることがができます。これは祭典の際に楽器を置いたり、踊りの舞台として使用されます。

荘厳な雰囲気の中で行われる祭典の中にはいくつか特別な意味を持つ儀式があります。その中の一つに正装した禮生がお供え物の動物の毛と血を埋葬する「瘞毛血」（イーマオシエ）があります。これは大地で生まれた育った動物を土に返し養分を与えることで万物を清め、輪廻転生をさせると



2 |
4 3 | 1

1. 釈奠で有名な踊り「佾舞」は東アジアにおける重要な無形文化遺産です。
2. 「瘞毛血」は万物の輪廻転生を表しています。
3. 釈奠のお供え物は189品に上り種類も豊富です。
4. 楽生は祭典中に雅楽を演奏します。



いう意味があります。近年では動物保護意識が向上したことで、紅麴で作った赤い水を動物の血の代わりま

時代の変化 伝統の変革

お父さん世代から台北市孔子廟の近くに住み、10余年余に渡って釈奠の禮生を担当してきた陳應義（チェンインイー）さんは、釈奠に対する深い思いを持っています。しかし近年になり、時代の変化による祭典の変革を経験しました。

例えば祭典の終わりに、参加者がお供え物の牛の頭の毛を抜く「抜智慧毛（知恵の毛）」がありました。これは「孔子が食べた牛の頭の毛を抜くことで、頭が良くなる」という民間伝説に由来しています。しかし、近年では牛の毛を抜くのではなく、牛の毛に見立てたボールペンが使われるようになっていました。ボ

ールペンはひのき製で、『論語』の一説である「学びて時に之を習ふ」という言葉が刻まれており、金色の牛の模型に掛けられています。参加者たちはこのボールペンを抜き取ることで以前の伝統の代わりとしています。

長い歴史を持つ釈奠は、今日に至るまで様々な変化をしてきました。しかし、祭典だけでなく背景にある文化、礼節、そして最も大事な「教育」こそ未来に残し続ける価値があります。

孔子の格言にも「朋有り遠方より来たる、亦た樂しからずや（遠方から友人が訪ねてくれる、喜びを表した言葉）」とあるように、台北市孔子廟は多くの方の参拝と祭典への参加をお待ちしています。

①

地域全体で祝う

魍魎青山王祭典

文||張盈華 編集||下山敬之 写真||魍魎青山宮青山会、跟著邱小傑看廟會

長い歴史と文化遺産を持つ魍魎（モンジャー）は通りに点在する伝統グルメのほかにも、台北の中でも有名な寺廟がいくつもあります。その中の一つ、貴陽街（グイヤンジェ）にある魍魎青山宮（チンシャンゴン）では旧暦10月20日から23日にわたり、靈安尊王（リンアンズンワン）という神様の生誕祈願をする巡行とお祭りが開催されます。お祭りの正式名称は「青山王祭典」ですが、参拝を意味する「魍魎大拝拝」という俗称でも親しまれています。多くの参拝客が集まることから大稻埕霞海城隍生誕祭典、保生大帝巡行と合わせ台北市三大民俗祭りとして知られています。



災厄を防ぐ神 台湾へ渡る

1856年に建立された魍魎青山宮は、1854年に漁師たちが故郷の中国福建・青山宮祖廟から靈安尊王の神像を運んできたことに由来します。一説によると神像を運んでいる途中、旧市街（現在の西園路付近）に差し掛かったあたりで急に神像が重くなり、それ以上運ぶことができなくなりました。そこで漁師たちは線香を焚き、神様にお伺いを立てました。そして神様のご意思に従い、その地で靈安尊王を祀ることにしました。当時の魍魎は厄病が蔓延し、人々は不安と恐怖にさらされていました。が、不思議なことに一度靈安尊王にお祈りをする、患者たちの病気は治りました。それから信者が増えたことで今の場所に寺廟が建てられたと言われています。



最も目を引くの「青山宮の八将」は「赤面」と「緑面」に分かれて、台湾人にとって独特な扮装です。(写真 / 跟著邱小傑看廟會)

現在の青山宮は1938年に中国清の時代の宮殿を模して建造され、二つの本殿と二つの廊下、3階建ての後殿があります。歴史を感じさせる佇まいながらも台北市の三級古跡に指定されている建造物です。2013年の火災によって百年以上の歴史を持つ神像や古文書が焼失しました。地元の人たちは靈安尊王が台湾をより大きな災厄から守ったと信じ、さらに信仰を深める結果となりました。

地元の住民たちは神様の加護を信じ、一年に一度の青山王祭典で神様へ感謝の意を表示します。このイベントは年々地方の団結力を高める重要な行事となってきました。遡ること1953年、戒嚴令下にあった台北市政府は青山王祭典を地域の秋の行事としましたが、これは当時台北で二例しかない巡行イベントの一つでした。1975年



になると、青山王祭典は台北市七大宗教祭りの一つとなり、青山宮の巡行イベントも現在の万華（ワンホワ）区全域に至るほど規模が拡大されました。

夜間巡行 人知れず 穢れを払う

靈安尊王の誕生日は旧暦の10月23日ですが、イベントは旧暦の10月20日から開催されます。新暦だと11月16日と17日が夜間の巡行、18日が本巡行、19日が生誕祭となります。11月16日は前夜祭で艋舺清水巖の清水祖師と龍山寺の観音仏陀、西門町天后宮の媽祖などの神様たちが客神としてイベントに参加します。

靈安尊王は旧暦10月20日から21日の間、部下を率いて万華区南北の「夜間巡行」を行い、現世と彼世の穢れを払い、邪悪な悪鬼羅刹を捕えます。続く22日は大規模な「本巡行」が行われ、台湾北部の主要な寺廟の民

俗芸能団体が参加し、巡行の途中で地元の人たちが設置した線香やご先祖様の祭壇、舞台で歌や踊りを披露します。毎年、本巡行の当日は多くの人たちが靈安尊王を迎え、幸運を表す爆竹で誕生日を祝います。また、過去に靈安尊王に願い事をして成就した信者は全身赤い服装と藁の靴を身につけ、顔にお面のような紋様を描いた「将脚」というお供に扮します。これはお礼参り意味も込められていて、祭典をより一層盛り上げてくれます。

青山宮の八将 迫力 溢れる「鬼歩」

巡行の際に最も目を引くのは「青山宮の八将」という集団です。特殊な顔の模様と衣装、拷問具を手にした姿など一貫して伝統を守っていることから、最も古い伝統を持つ民俗芸能の一つと言えます。八将は4人ずつ「赤面」と「緑面」に



2 | 1

1. 「青山宮の八将」のメンバーは全員志願して参加して、心から熱意をもって靈安尊王に付き従います。(写真/ 跟著邱小傑看廟會)
2. 「艋舺青山宮に祀られている靈安尊王の神像。
(写真/ 艋舺青山宮青山会)

分かれませんが、赤と緑の組み合わせは台湾でも唯一無二の衣装です。彼らは頭に伝統的な冠を戴き、巡行の最前列で神様の護衛を務めます。行進の際は特殊な足運びの「鬼歩」で移動し、靈安尊王を護っていますが、その姿は迫力があり見ている人の心を揺さぶります。また、八将たちの中央にはもう一人「引路童子」という案内役がいます。これは

白鶴の化身と言われている、同じく冠と大蛇刺繍の衣を纏い、手には瓢箪型の明かりを持って八将の先導を行います。また、八将たちを演じるのは全員自ら志願して参加した一般の人たちです。この集団は祭典が行われる3日間、慎み深い態度と熱意をもって靈安尊王に付き従います。

そして、靈安尊王の誕生日当日になると先に宮内で儀式を行い、夕方からは貴陽街で盛大な生誕祭が行われます。野外で行われる生誕祭は大皿料理が次々と運ばれてくる伝統的なスタイルで、スタッフやお祭りの主催、スポンサーたちが招かれます。また、宴の中で伝統的なポエ占いを行い来年の主催者とスポンサーが決められます。これらは靈安尊王に選ばれたのと同然なので、神様から祝福され、そのご加護を得たことを意味するといわれています。青山宮で秘書を務める陳玉



神様の生誕祈願をする巡行とお祭りはいつも多くの参拝客が集まります。(写真/ 艋舺青山宮青山会)

敏(チエンユーミン)さんは「祭典の流れは以前とそれほど変わっていませんが、昔は巡行途中にある祭壇が簡易的なもので、お祝いの仕方にも限られていました。現在は時代の変化に合わせて太鼓に歌、ポールダンスやスパーカーを使った巡行など様々な方式が生まれたことで、祭典も賑やかさも増えています」と語ってくださいました。

また、毎年この巡行では主催者とスポンサーたちも自分の子供を神輿に乗せて練り歩き、参加者に「鹹光餅」というパンに似た食べ物を配り平安を祈願します。もともと神輿は人が担いでいましたが、時代の変化に合わせて現在は三輪自動車の神輿になりました。また、約20年前は各民家の中でたくさん料理をお客さんにもてなす「辦桌」という方式でお祝いをしていましたが、近年では風習の変化などによって見かけることが

なくなりました。

巡行の心得 環境にやさしく

近年ではエコ意識の向上から、青山宮のスタッフは爆竹の量を減らしたり、夜間の騒音などに配慮するよう主催やスポンサーたちに注意を促しています。前年から台北市政府環境保護局とも協力し、巡行後すぐにゴミ収集車を走らせ、爆竹やゴミを回収するなど地域環境を清潔に保っています。

伝統儀式の残る青山王祭典は、地域住民の信仰と地域文化を表していて、何ものにも代え難い心の拠り所になっています。この祭典は人々が安らぎを感じられる行事であり、台北市における重要な無形文化遺産でもあります。

①

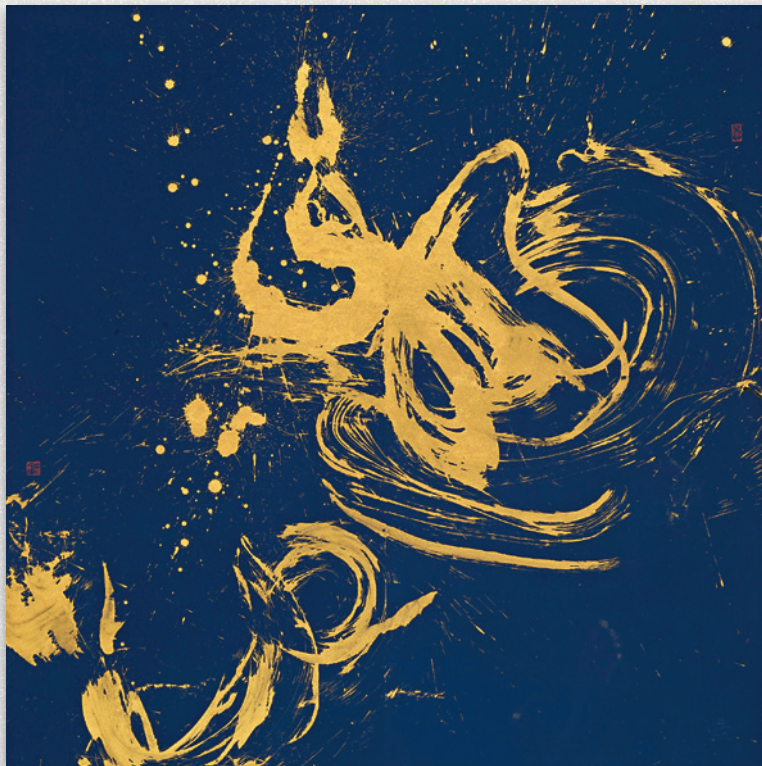
伝統と現代を融合させる 書道家徐永進 書道の枠を超えて

「書道とは型がなく変化のあるものであり、木々や石、山、水、草原、海、風、雨など自然の風景や人が作り出す一切が創作の源になります。イメージと文字は繋がっているのです」と徐永進（シューヨンジン）さんは自身の書道に対する解釈を述べます。

文＝許凱森 編集＝下山敬之 写真＝林煒凱、徐永進



《遊心》



ありのまま 芸術を 楽しむ

今年68歳を迎える徐永進先生は台湾における現代書道芸術家ですが、若い頃は伝統書道を学んでいました。1990年以降に現代書道や現代水墨画に心酔するようになり、台湾の書画一体の新境地を開拓してきました。先生は新竹（シンジュー）教師専門学校に通われていた頃、17歳で初めて筆を持ちました。最初は独学でスタートし、そこから中国唐代の書家柳公権の作品が模写を行い、本格的に書道の先生から指導を受け始めると、一年後には達成感や面白さを感じるようになり、書道は自分一生の仕事のことを確認しました。

ある日本書道訪問団が台湾に訪れた際、「何年後かには台湾人が書道を学ぶなら日本に来るしかなくなる」という言葉を言いまし

《千里之行始於足下》



2 | 1

1. - 2. 《遊心》と《千里之行始於足下》という作品は流れるような筆ばきによって伝統の書道の域を脱し、異なる次元の芸術へと昇華しました。(写真／徐永進提供)

たが、先生はこの言葉が納得できず、いざれ日本の舞台で自らの書道を披露するという目標を立てました。そこからは厳しい書道の練習に身を投じ、大量の紙や墨を買い、お金がない時はリングと水で濡らした筆を使って練習をしたそうです。授業後の10分休憩を利用することで一日80、90分の練習時間が確保できました。

この50年筆を手放さなかった徐永進先生ですが、書道の練習のしすぎは自信のなさの表れであると考えています。先生は初心者の方がよりうまくなろうと時間を惜しまず練習するのは間違いで、芸術はインスピレーションなど自然の流れに沿って表現することで心から楽しめる気がしました。

名作「TAIWAN」について

先生の文字と絵には「大衆に寄り添う」という理念が強く反映されていて、地



文字であり絵でもある「TAIWAN」の字は、台湾の独特な特徴と風情を表しています。

域文化を思いやり、作品に組み込むことで、書道を現代芸術に昇華させています。

2001年に徐永進先生は「TAMAN」の6文字を使い風景画を描きました。一文字一文字に深い意味が含まれたこの作品は、台湾の観光推進の象徴的な作品となりました。Tは野柳という北海岸にある女王頭（クイーンズヘッド）を表し、Aは台湾人が外国人を厚くもてなす姿を、Iは観光客が野柳の女王頭を眺める姿、Wは二人が手を取り喜びを分かち合いながら談笑する姿、AとNは祖母が孫を抱く親子三代の家庭の暖かさを表しています。

しかし、先生は2004年に脳卒中を患いました。右側全体が半身麻痺になると体も衰弱し、話す気力も失われました。それでも利き手ではない左手で毎日書道の練習を続けました。「以前は意識をせずとも体が勝手にバランスを取っていましたが、脳卒中になってからは意識をするようになりました。それは私が近年試みている現代と伝統のバランスを取ることに同じ様なことでした」と先生は話します。

2011年に台北現代美術館で開かれた《Beyond 書道》の個展では、アクリル絵画の作品、立体の書道彫刻、デジタル技術と動画を組み合わせたデジタル書芸、さらに来場者と協力して作り上げるインタラクティブアート、舞台芸術の劇団である「優人神鼓」と共同制作した円形劇場「声動書芸」が披露されました。自由な発想で複数のメディアを組み合わせる表現方法や前衛的な試みによって、平面的に見るだけだった書道という芸術を空間的な体験へと導きました。

奥様との出会い 自然と共に生きる

徐先生ご夫妻は士林（シーリン）区福林小学校の近くに住んでいます。この場所を選んだのには二人の馴れ初めが関係しています。およそ30年前、先生と奥様の鄭芳和（チェンファンハー）さんはそれぞれの知人と共に中国楽器の演奏会を

台北熊讚 BRAVO

徐永進先生が即興で書かれた作品「台北熊讚 BRAVO」。その技術の高さはもちろん、作品一つ一つに注ぐ愛情を感じることができます。

行いました。(十面埋伏)という演目が演奏される頃、客席では先生が偶然会った奥様と書道と音楽のリズムについて話をしていました。奥様はその時の話に興味を持ち、それがきっかけでお付き合いが始まりました。

その後、先生は銘伝商業専門学校、奥様は文化大学で働くことになり、お互いの勤務先に近い士林区に引っ越しました。当時の士林は稲畑と蓮の池が多く、近場にあった故宫博物館と台北市立美術館が二人のデースポットでした。二人とも自然に触れることが好きで、陽明山や外双溪、聖人滝が特にお気に入りだそうです。士林の近くには数十個の公園やサイクリングロードがあるので、自転車で川沿いの道を走ることが二人の楽しみです。また、先生にとっては士林官邸の菊を見る、山に登る、町中に

あるガジュマルの木を見ることが作品の素材となっています。

無心の執筆 紙に宿る命

私たちが「台北熊讚 BRAVO (台北市のマスコット Bravo と「台北最高」を掛けたダジャレ)」という言葉を書いて頂きたいとお願いと、先生はこの非公式のお話をご快諾下さいました。そして一切手を抜くことなく何度も練習を重ねると筆を両手で持ち、紙が破れそうになるほど勢いよく筆を振るわれました。一画一画を確かめながら書くのではなく、無心で筆を走らせたその様子は先生ご自身が書いていたように、「書道の神様」とも呼ぶべき存在が先生の手を取っていたようにも見えました。

論語の中に「職人は仕事を始める前に、まず道具を

整えなければならぬ」と言葉がありますが、徐永進先生の場合は書道の道具にあまり執着をしません。先生が重視しているのは筆を執る人とその心だからです。先生のご自宅に飾られている宋代の僧、無門慧開(むもんえかい)の詩「春有百花秋有月、夏有涼風冬有雪；若無閒事掛心頭、便是人間好時節(つまらないことに思い煩うことがなければ、春夏秋冬いつでもいい時節であるという意味)」は正に先生のお考えを表現しています。

先生はかつて、書道は自分の初恋の相手であり、書道より楽しいことはないと話されました。その言葉通り、先生は今でも朝の座禅と運動を終えるとすぐに書道に向かう日々を送られています。それは素朴なよう

ペンを武器に：

台北のイラストレーター A ee mi との対談

文＝Jenna Lynn Cody 編集＝下山敬之 写真＝林彥廷 'Taiwan Scene' Shoud Wang イラスト＝A ee mi

観光客の多くは台北のイラスト業界の動向をあまり知りません。台湾のイラストレーターの多くは個人的なプロジェクトで作品を作り出し、個人書店やアートショップ、Facebook ページなどのオンライン上で発表しています。他にも2018年に台北で初めて開催されたイラストフェアや松山文創園區（ソンシャンウェンチュアンユエンチュウ）などのアートスペースを利用して自ら展示会を主催しています。

新気鋭のイラストレーターの一人であるA ee mi は、鮮やかな色彩で台北市の特徴であるカラフルな看板や懐かしい町並み、風景を表現すると同時に社会問題に対し強いメッセージを発しています。

今季の《TAIPEI》は、悠久の歴史を持ち、A ee mi が生まれ育った街でもある万華（ワンホワ）区で彼女の作品や社会問題をテーマに対談を行いました。



▶ビデオインタビュー

// 心の声に耳を傾ける

まず彼女の独特な名前について質問をしました。「実は特に意味はないんです。私の英語名はエイミー（Aimee）ですが、以前ソウルの映画祭に参加した際、韓国語ではアイミー（a-ee-mi）と発音することに気づき、面白かったのでこの名前にしました」。

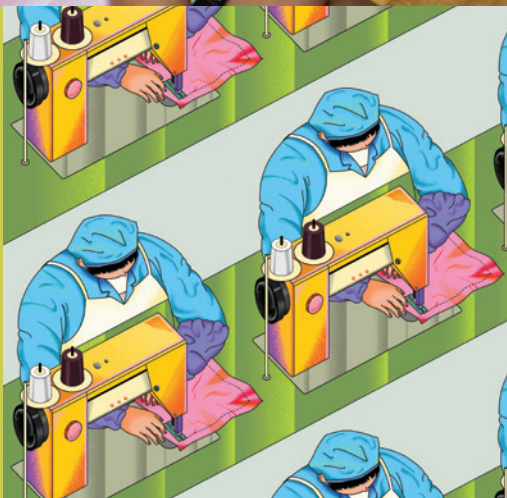
A ee mi は台湾のイラスト業界で注目を集めています。彼女はニューヨークで芸術分野の修士号を取得し、短期間の就労を経て、2017年に台湾に戻りました。その後は自分の心の声に耳を傾け、男女同権や同性結婚、政治といった社会的な問題を取り上げながらイラストレーターとしての地位を確立しました。

「数年前までは社会問題には関心がありませんでした。ただ、留学の直前に台北でひまわり学生運動が起こり、香港でも反政府デモが発生しました。こうした問題は絶えず起こっていますが、私たちは『自分には無関係』と目を背けます。しかし、私たちには自分の未来を決める力と権利があり、現代人はそれを認識しなければいけません」と A ee mi は言います。



2 | 1
3

1. A ee mi は台北のイラストレーター兼アニメーターで、作品の中で台湾文化や社会問題を取り上げています。
2. 人の目を引くイラストやカラフルな色調は A ee mi の作品の特徴の一つです。
3. 《流行刊物》は A ee mi が最初に発行した雑誌で、ファストファッションの消費問題をテーマとすることで多くの人に環境問題と向き合ってほしいという願いが込められています。（イラスト / A ee mi）





// 台北をパレットに描く作品

A ee mi の作品には台北独自の美的感覚や文化、場所など彼女のよく知る要素が含まれています。彼女は経済的なストレスを抱えながら大学を卒業し、イラストレーターになりましたが、外国文化の中で「焦り」を感じていました。そのため、台北に戻ってからは親しみやすさのある作品を心がけています。特に彼女が実際に「見た」万華区のカラフルな看板やネオン、昔ながらのマッサージ店や理髪店など風情ある町並みは作品に大きく影響しています。

彼女は台湾に戻ってから自身の作品には台北の風景や生活環境が反映されていることに気づきました。「普段見慣れた町並みや周囲にある物事が作品に影響するとは思いませんでした。台北に戻ってから新しいスタイルを試し、自分が作りたいものは何か考えた時に、初期の作品には西門町（シーメンディン）の町並みや万華の伝統的な理髪店など台北にある当たり前のものが含まれていました。そこで伝統的なものが自分にとっては逆に新しいということに気

づきました」と彼女は振り返ります。

続いて台北とアメリカでイラストレーターをする長所と短所を伺いました。「アメリカの市場は成熟していますが、商業的すぎる面もあります。反対に台北の市場はあまり成熟していませんが、イラストレーターは非難や批評を受けないので、表現したいものを自由に作れる点が魅力です」。

また、イラストのスタイルに関してどちらの国も大きな違いはないそうで、「私たちは情報爆発の時代の中において、あらゆるものの境界はどんどん曖昧になっています。」と話します。また、彼女の作品には自身の伝えたいメッセージが隠されています。彼女にとって台北の美しさと台湾が抱える問題は切り離せないそうで、「私の作品と生活をしている街や国、そこで起きている問題は全て関連しています」と答えています。



2
3
4

1. ー 2. A ee mi の目には万華区にある伝統的な理髪店さえも非常に興味深い題材になります。(写真 / 右: Taiwan Scene, イラスト / 左: A ee mi)
3. A ee mi の作品にはネオンの鮮やかな色彩など台北にある様々な要素が取り入れられています。(写真 / Should Wang)
4. 万華にある日常的な風景は A ee mi の創作のインスピレーションとなっています。





// イラストレーションと 台北の社会問題

A ee mi が最初に発行したのは《流行刊物》という個人誌でした。彼女の恋人が自身のブランドを持つファッションデザイナーで、ファッション関連の展示会に参加した際にインスピレーションを受けてファストのファッションをテーマとした雑誌を作りました。

彼女は過去にファストファッションの服をよく買っていましたが、その背後に環境汚染の問題があることを知りませんでした。「恋人と付き合い始めてからは、環境問題についてよく話し合いました。企業はたくさんの服を作り、売れ残った服は途上国に送りつけます。企業は無料で服を提供しているつもりでも、本当にそれほどたくさんの服が必要か疑問を感じます」と経緯を話してくれました。

また、《流行刊物》は発行まで2週間しか猶予がなかったそうですが、基本的に彼女はいつも短期間でプロジェクトを完成させます。計画は立てるものの時間はあまり割かず、インスピレーションを感じた時にすぐに作り始めます。同性結婚をテーマとした《紅配緑》という作品も同様に、「作業開始がオンラインで公開する3週間前だったのでかなり急ぎでした」と話しています。

また、男女同権というテーマに強い関心があり、よく作品のテーマとして採り上げています。「私は同性結婚や男女同権は当たり前と考えています。台北にはたくさんの同性愛者の友人がいますが、彼らも一般の人と同じように愛し、愛されるべき人たちです。大学にも同様の友人がいて、社会における立場や自己表現の方法について悩んでいました」。

さらに、彼女自身の実体験も話してくれました。「中学の頃、クラスの男子たちは女子のブラジャーのストラップを弾いたり、下着の色を予想する遊びをしていました。私はおとなしい性格だったので、男子たちからターゲットにされていました。今では反省していますが、当時の私は反撃する術を知らず、それを受け入れていました」。

こうした経験から《性別教育》という台湾の罵り言葉に隠れた性差別的な意味合いを取り上げたジンも発行しています。「私に性別に関する暴言を吐く人がたくさんいます。社会問題が熱く議論されても一部で『“差別的な表現を無くそう”なんて下らない』という声上がるのは、議論するだけで根本的な問題は解決されていないからです」。

A ee mi はアート活動を通して人々の社会問題に対する意識を高めようと考えています。それこそが彼女の思いを直接的に伝える方法だからです。「時折、私は自分が弱い存在で問題を解決することはできないと感じます。イラストレーターの友達とも話しますが、変えたいという思いはあっても何を作ればいいのかわからず、本当に何か変えられるのかと自分を疑ってしまいます」。

「ただ、一部のアーティストは何も変えられないとわかった上で作品を作り続けています。重要なことは自分に何ができて、どんな影響を与えられるか『考える』ことではなく、それを『する』ということです。一本のペンが強力な武器になります」とその思いを話してくれました。

1. 男女平等教育、同性結婚、ファストファッションの消費問題といった社会問題はすべて A ee mi が作品上で取り上げているテーマです。
2. MRT 中山駅付近にある荒花書店は海外と台湾のインデペンデントアーティストの作品が取り扱われていることで有名です。(写真 / Taiwan Scene)
3. 湿地 Venue (ヴェニユ) は複合型の展示スペースで台北のアーティストやクリエイターが作品の展示や上演をするステージがあります。(写真 / Taiwan Scene)



// 台北のイラスト業界の今について

A ee mi は留学に行った 2014 年以降、台北のイラスト業界が大きく変わり始めたと感じています。彼女は帰国後、より独立的で、非主流の作品を作ったことで台北の個人書店やアート、サブカルチャー作品を展示するスペースから協力を得られるようになりました。

「アメリカではこうした場所はとても人気がありましたが、私が留学に行く前の台北にはほとんどありませんでした。私の留学中に個人書店が数多く台北でオープンし、台湾や海外の様々な作品を販売するようになりました。さらに台湾の独立したイラストレーターの宣伝もしてくれています。」と彼女は説明します。

彼女は基本的に出不精ですが、都市にある物理的な「場所」は非常に重要と考えています。現在は誰もがオンライン上で自身の作品を発信できますが、彼女は書店のような空間で実際に本をめくることで、より素敵な体験と影響を与えられると考えていて、「お店に入る前はどんな本に出会うかわかりませんが、恋愛と同じよ

うに出会ったあとはそこからたくさんのことが学べます」と話しています。

A ee mi がおすすめする台北のおすすめスポットは MRT 中山駅付近で、中でも「荒花書店」、「PAR STORE」、「Waiting Room」、「湿地 Venue (ヴェニユ)」に行くべきと話します。

荒花書店は台湾と海外のインデペンデントアーティストの作品をメインで販売していて、彼女も「行けば何かが見つかるお店」と話しています。PAR STORE はインデペンデントレーベルが主体のレコード店ですが、個人誌などの書籍も扱っています。Waiting Room は主にヨーロッパやアメリカの雑誌がメインで、他にも個人ブランドの服の販売や台北のアーティストの作品の展示もしています。湿地 Venue は A ee mi が昨年 2 月に展示会を開催したことから特におすすめだそうです。中山駅以外だと公館にある Mangasick がおすすめで、台北と日本の漫画を取り扱っています。

現在、台北では A ee mi のような年齢的にもキャリア的にも若いイラストレーターが増えていて、彼女の自由なスタイルを見てもわかるように台北は自由な創作環境を提供しています。アートは娯楽や歓楽の元ですが、A ee mi は自身の作品を通して多くの人の社会問題に対する意識を高め、アートが持つ真の力を示そうとしています。今後はこうした考えが台北のアートのトレンドになっていくことでしょう。 **T**



メジャーを目指して： 台北のヒップホップダンス を支えるスペイン人B-boy

文 = Adam Hopkins 編集 = 下山敬之 写真 = Debby Wang, Boyz In The Hood

毎年多くの外国人が台北へ移り住んでいます。その理由はそれぞれ異なります。ただ、動機は違っても移住してきた人たちは皆、台北での生活に馴染み、新しい生活を始めていかなければなりません。スペインから来た35歳のクリシュナ・パラシオ (Krishna Palacio) さんは、ブレイクダンス (Break Dance) への熱い思いが文化の違いを乗り越えさせてくれたと話します。



台北のストリートダンス界へ参加

クリシュナさんは台北のストリートダンスは非常に活発で、他のサブカルチャーも日々活気を帯びてきていると感じています。そんな彼はもともとマドリッド出身で、3年ほど前から台北に住んでいます。ダンスは16歳から始め、ステップに重点を置いたフットワーク中心のスタイルを得意としています。

「移住したばかりの頃は台北のストリートダンスがどういふものかわかりませんでした。ですが、ブレイクダンスの世界はそれほど大きくないので、実際に参加するようになっても困るようなことは一つもありませんでした。また、この数年間ブレイクダンスは非常に人気を集めているので、コミュニティに参加すればすぐにたくさんの方の知り合いができます」とクリシュナさんは話します。

日常生活と同じくブレイクダンスの世界でも出会いが重要です。クリシュナさんもまたフイリピン人のD.O.C.仲間を通じてたくさんの方と知り合い、それがきっかけで台北のブレイクダンス界に足を踏み入れました。移住後は台北のダンサーたちに迎えられ、一緒に練習をするようになり、そこでできた友人を介してイベントにも参加するようになりました。こうした経緯で台北でのダンサー生活が幕を開けました。

32 | 1

1. 台北に住んで3年になるスペイン出身のB-boyクリシュナさんは、台湾のブレイクダンスを熟知しています。
2. — 3. クリシュナさんはフットワークのスペシャリストです。

ダンスに夢中な男の台北生活

クリシュナさんは、少なくとも週2回は練習を行い、週末には台北で開催されるダンスバトル、サイフアーやジャムなどに参加します。もともとダンスバトルが好きでしたが、台北に来てから他のダンサーと即興で踊ることが好きになり、ダンサーたちが円を作

って自由に踊るサイフアー(cypher)に参加するようになりました。ダンサーとの交流を通じ、様々なことを学ぶことが台北でダンスをする楽しみの一つだそうで、「一番面白いのは他の人と談笑したり、他のダンサーたちが何をするかを見ることです」と彼は話します。

台北のブレイクダンスはテクニカルな技を練習する人が多く、若いダンサーは特に体操競技のような難易度の高いダイナミックな技に挑戦する傾向があるそう

です。クリシュナさんにとってはこうした技の練習よりも、人とのコミュニケーションの方が問題だそうです。ただ、流暢に中国語で会話ができてなくてもダンスがコミュニケーションツールになっていくそうで、「ありきたりな言葉ですが、ボディランゲージこそが最高の言語です」と彼は笑って話します。

サブからメジャーカルチャーへ

クリシュナさんは「台北で友人たちと一緒に練習することで、私のダンサーとしての人生に豊かさを感じています」と話します。ブレイクダンスはスペイン、日本、台湾など場所を問わず、その地域や国の文化背景に影響を受けています。彼はそうした様々なダンス環境を体験することでたくさん

さんのことが学べるそうです。また、台北のブレイクダンスはヨーロッパに比べると非常にメジャーと教える

てくれました。ブレイクダンス自体はまだサブカルチャーの域を出ませんが、台北の各高校にはダンス部があり、様々なスタイルが練習されているほど若者に高い人気があります。それに対してスペインやクリシュナさんが以前住んでいたロンドンでは参加している人が少なく、メジャーとは言えないそうです。

「台北のプロの多くはプロのダンサーとして生計を立てています。台北にはたくさんさんのダンススクールがあり、彼らは非常に熱心にダンスの指導をしています」と彼は言います。驚くべきことです。確かに台北のアーティスティックな活動は人気が高いことから、ダンサーたちが熱心に授業をしたり、プロの道を歩むのもうなずけます。

また、クリシュナさんは情熱を持った人たちにダンスの技を教えることが好きで、現在はお金を取らずに

無料でダンスの指導をしています。彼にとっては非常にやりがいがあり、お金以上に様々なものを得ているそうです。現在の仕事はボードゲームの開発ですが、こちらもブレイクダンスとは異なる表現をするので楽しみながら取り組んでいて、「これもまた一つの創造です」と笑いながら話していました。また、プロではないダンサーたちも様々な職業や異なるヒップホップの趣味を持った人がいます。例えば彼の友人のプログラマーはスペインのダンスサークルに所属しています。他にも弁護士や歯科医など様々な人たちがブレイクダンスをしているそうです。

台北はブレイクダンスやストリートダンスに非常に適していて、公園や公共の広場などに行くと踊っている人をよく見かけます。クリシュナさんも「台北はどこでも踊ることができるの



1 2
3

1. - 3. クリシュナさんは台北のブレイクダンスが非常にメジャーと思って、自由に街中にダンスすることもできます。



Boys In The Hood など数多くのプロダンサーがストリートダンス関連のイベントを主催しています。(写真/Boyz In The Hood)

で、場所に困ることはありません」と話しています。彼がよく練習をしている場所は西門町（シーメンドイン）にある台北シネマパークで、そこには壁一面に描かれたウォールアートや路上の落書き、スケートボードで遊ぶ人などブレイクダンスに適した雰囲気があります。また、あまり一般的ではなく知る人ぞ知るといふ場所で、傍目にはわからない様々なサブカルチャーが隠れています。ブレイクダンスにも似たエッジの効いた場所ですが、基本的に誰でも参加できます。

ブレイクダンスの普及を 目指すダンサーたち

台北のブレイクダンス界で有名な人はと尋ねるとクリシュナさんは「Boyz In The Hood」の名を挙げました。志を同じくするダンサーたちが集まって作られたダンスグループで、彼らはよく台北でジャムイベン



トを主催したり、授業を行うなどして台北のブレイクダンス界を盛り上げています。他にもBoyz In The Hoodというダンス教室の経営をしながらブレイクダンスとヒップホップ文化を多くの台湾人やネパールなどの発展途上国にまで広めようと努力しています。クリシュナさんはこうした台湾の友人たちを支えながら、ブレイクダンスがメジャーカルチャーとなり多くの人を魅了する日を楽しみにしています。

台北のストリートダンスの未来

台北はエネルギーで活力に満ちた都市ですが、

なぜならイベントを探すのに最も有効なツールは「Facebook」だからで、クリシュナさんも「Facebook」上で検索すればすぐに見つかります」と話します。また、今年開催されるイベントの中でも特に注目すべきは、10月11日から12日にかけて公館水岸広場で開催される「Boyz In The Hood」の10周年記念イベントです。1対1のダンスバトルやチーム戦などの演目が用意されていて、クリシュナさんも参加します。

クリシュナさんは健康的で長命なダンサー人生を送りたいと考えているそうで、「ダンスを始めて18年になりますが、踊れなくなるまで踊りたいです」と話します。こうした長期的な展望を叶えるためにも今後10年、もしくはもっと長い期間に渡り、自身が台北ブレイクダンス界の柱になるように考えています。現在のブレイクダンスが台北の若者たちに支持されているように、今後の10年はより大きな発展をしていくとクリシュナさんは確信しています。

台湾におけるブレイクダンスは他の地域に比べてす

でに大規模ですが、人口比率的にもブレイクダンスに理解を示す人や積極的に参加する人の数が多いことから、今後ますます発展することは疑う余地もありません。「台湾はあちこちにダンサーがいて、多くの人がダンスという専門性の高い仕事で生計を立てています。また、台湾人のブレイクダンスに対する認知度も非常に高いです」とクリシュナさんは言います。ヨーロッパやアメリカに比べると台北は小さく、参加したいという気持ちさえあればすぐにその輪に加わることができるので、どんどん規模が拡大していきます。

メジャーとサブカルチャーの間を走り、小さいよういて巨大な規模を持つ台湾のブレイクダンス界はその勢いを増し続けています。その勢いはいつの日か台北と世界、さらにはダンスと文化を繋ぐ架け橋になるかもしれません。一部では2024年にパリで開催されるオリンピックの正式種目としてブレイクダンスが選ばれると噂されています。ある日、台北のダンサーがオリンピックの舞台で熱いダンスを披露し、私たちを楽しませてくれることでしょう。①



▶ビデオインタビュー



Boyz In The Hood



<https://www.facebook.com/bzhdtw/>



信仰を辿った先にあるご当地料理

大稻埕慈聖宮の 台湾式ブランチ



文 = Ryan Hong 編集 = 下山敬之 写真 = Ryan Hong

信仰には人を集める力があります。台湾の寺廟は昔から人々が集まって交流をする場所になって、北極星のように人を引きつけます。また、台湾はその土地によって海の幸や山の幸といった様々な味わいのご当地料理がありますが、信仰の対象である寺廟の方角へ向かうと最高のご当地料理に出会うことができます。

特に台湾は他に例を見ないほど信仰と料理が深く結びついています。台湾には大勢で一緒に食事をする料理はより美味しくなるという意味のことわざ「濟人好呷物（ズィランホージャーミー）」がありますが、台湾人の活気に満ちた性格もあって寺廟やその敷地には様々な屋台が生まれ、徐々に発展しながら今日に至りました。料理や文化、人の温かさや風習を味わうなら、ぜひ寺廟を訪れてみて下さい。

慈聖宮にある 台北の味

場所を問わず各都市の寺廟はグルメの中心地で、そこに並ぶ屋台には土地ごとの味や特色が根付いています。高雄開帝廟、鹿港天后宮、新竹都城隍廟など、各寺廟にはその地域の風習が現れています。では、台北はというと大稻埕慈聖宮（ツーシヨンゴン）を置いて他にありません。

慈聖宮は発達した台北の中でも特別な場所です。正門は大通り沿いではなく小さな路地にあり、大きな敷地の中には数本のガジュマルの木があります。そこには色とりどりに輝く装飾や参拝者のための豪華な宿泊施設はなく、人々が交流する広い庭と囲いの塀に沿って並ぶ屋台という伝統的な風景があるだけです。



慈聖宮にたくさんの料理は地元の人もおすすめる絶品ばかりです。

午後には閉まる 大稻埕の屋台

慈聖宮周辺の屋台は営業時間が短いことが特徴です。朝早すぎると開いておらず、午後に行くと閉店しているのです。昼前に行くのがおすすめです。ここの台湾式ランチには儀式と言えるような順序があります。まずは太陽が昇り切る前に一人で屋台の前でお粥を食べる、または友達と寺廟の庭部分でチャーハンや鼎辺趲という米料理入りのスープを食べます。他にも鶏卷や饅頭、四神スープとチャーハンといった選択肢があり、連日通ったとしても毎日異なる料理が楽しめます。中には40年間、飽きることなく通い続けている常連さんもありますが、午前の心地よい日差しと敷地内の人情味溢れる風景、三代に渡って受け継がれている屋台の味はずっと変わっていません。



2 1
3

1. 活気あふれる慈聖宮は大稻埕にある三大寺廟の一つです。
2. 四神スープと肉まんの組み合わせは台北人にとって唯一無二の食べ方です。
3. 慈聖宮の前の屋台には昔ながらの料理が残っています。

まずはスープから

慈聖宮はスープなどが代表的な料理で、朝の体が目覚めていない状態には温かいスープが最適です。中でも葉家肉粥（イエジャールウジヨウ）という屋台は有名なお店の一つです。お粥は豚骨スープで作られ、広東粥のような柔らかい食感ではなく歯ごたえがあります。

揚げ物と一緒に食べるのがおすすめの食べ方で、特に紅糟肉という豚肉の揚げ物とお粥の組み合わせが最高です。サクサクの生地に包まれた豚肉を一口食べた後にお粥を食べるのが地元流の食べ方です。

その他にも排骨湯という豚肉のスープもおすすめで、澄んだスープに程よい油分があります。また、口あたりの爽やかな豚の脂身と大根の香り、一口でほぐれるほど煮込んだ豚肉が入っている他、さいの目に切

られた大根が肉の旨味を引き出すので、2、3口で食べ切ってしまうです。

伝統的なスープ料理と言えば、四神スープも台湾の代表的な料理の一つです。台北では四神スープに熱々の肉まんを組み合わせます。この特殊な組み合わせは台北独自の食習慣ですが、それは慈聖宮においても例外ではありません。慈聖宮前の四神スープはサトウキビの甘さと他のお店よりも大きくて柔らかいホルモンが特徴です。ふっくらした肉まんの皮をスープにつけて食べ、それから肉まんのジュシーな餡にかじりつくというのが最高の食べ方です。

変化を楽しむ米料理

慈聖宮にある米料理の中で最もおすすめのものが阿蘭（アーラン）という屋台のチャーハンです。鍋で炒めるチャーハンとは異なり、鉄板を使うことで米粒をより



4
5 6

4. 鼎辺趖は台湾における米食文化の代表する料理の一つです。
5. 街路樹の下でのんびりとお昼ご飯を食べるのが大稲埕の癒し日常です。
6. 大稲埕の名無し鶏巻はサクサクとした皮の食感がとても印象的です。

パラパラとさせています。また、醤油で均等に包まれたお米と細やかな卵が香りを十分引き立て、一度食べると止まらなくなります。

また、米料理は非常に変化に富んでいて、鼎辺趖もその中の一つです。この料理は鍋の縁に米から作った生地を流しこむことで、それが固まり具の一つとして鍋の中に加わります。阿蘭では特に使用する具材が豊富で、他のお店では見ることがないえのき茸やたけのこ、豚の肝臓にエビ、豚肉のつみれが入っています。このスープ1杯でも十分にお腹を満たせますが、他にもいろいろな米料理を提供しているのがこのお店の特徴です。

最も有名な「名無し」の屋台

様々な料理が食べられる慈聖宮ですが、絶対に忘れてはいけないうのは最も有名な「鶏巻」という料理です。

面白いことにこの屋台は非常に有名でありながら名前がありません。ただ、看板には大きく「鶏巻」と書かれているので地元の人からは「名無しの鶏巻屋」と呼ばれています。また、この料理は鶏巻と書きますが、鶏肉は一切入っておらず、玉ねぎと豚肉の赤身で作った餡を柔らかい皮で包んで揚げます。甘辛いソースを付けて食べると忘れられなくなるので、お店に名前がなくともたくさんの人が訪れます。

保安街の49巷という通り屋台には昔ながらの人情味が残り続けています。ここが台北の味であり、慈聖宮が何十年もの間変わることなく残り続けてきたものです。ぜひ穏やかな朝の時間に散歩をしたり、お店の店主との雑談をしてみて下さい。そして、気になる料理があれば注文をして、大稲埕の昼食を楽しみましょう。

①



流行りのお店にはない良さを求めて： 台北の老舗カフェ

文 = Francesca Chang 編集 = 下山敬之 写真 = Samil Kuo, Taiwan Scene, Nathan Dumlao

活気あふれる台北では最近若い世代を中心に高品質な豆、おしゃれな雰囲気、ユニークさをテーマにしたカフェが流行っています。台北はコーヒー好きの人たちの天国になっていて、飲み物を一杯注文すれば居心地の良いカフェで1日過ごせます。また、高級なお店の多くは、焙煎や調合の世界的なコンテストで優勝したプロのバリスタが運営しています。台北が世界でも有数のコーヒー都市として注目されるようになったのは、「ヒップスター」という流行に敏感な人たちが好むお店のおかげです。しかし、台北が現在の地位を獲得する以前から存在する懐かしいコーヒー文化を持ったお店が今も残り続けています。

ここでは第二次世界大戦以降から現在まで台北に残っている5軒の老舗カフェを紹介していきます。



蒋介石の時代から残る名店：

アストリア・カフェ

1

明星咖啡館

1949年に国民党政府が中国大陆から台湾へ渡ってきたことは周知の事実ですが、同年、ロシア革命後に上海へ亡命していた6名のロシア人が台北に移住してきたことはあまり知られていません。もともと起業家だったロシア人は台湾のビジネスパートナー簡錦錐（ジエンジンズィ）とともにパン屋を開業すると、それまではロシアの王室でしか食べられなかった柔らかいキャンディーとリュウガンを使ったマズルカウォルナットケーキを販売しました。お店の1階ではこれら焼き菓子系の商品、2階ではコーヒーと飲み物を提供していました。

1959年になると詩人の周夢蝶（ジョウモンディエ）が店の外で詩やその他の文芸作品を販売し始めたことで、このお店も知識人たちの間で人気を集め始めました。他のお店の店主たちとは異なり、簡さんは詩人がカフェの外で商売をすることを許可しました。その結果、後に台湾の著名な文学者となった人々を含む多くの若い作家たちが入り浸るようになりました。他にもソビエト連邦に10年以上留学していた蔣経国（しょうけいこく）総統、ファーストレディの蔣方良（しょうほうりょう）などの重要な政治家たちをも魅了しました。

15年に渡りしばしば休業を挟みましたが、今でも営業を続けており、かつて詩人やビジネスマン、政治家が好んだオリジナルのヨーロッパ式家具とロシアの焼き菓子を現在に残しています。特別な日にはロシアのブランデー入りの紅茶を注文してみてください。



明星咖啡館はヨーロッパ式の装飾とロシアンスイーツで有名なロシア式カフェです。



アストリア・カフェ
明星咖啡館



台北市中正区武昌街一段5号



10:00 - 21:00



2

1950 年代のコーヒー：

フォンダーカーフェイ

蜂大咖啡

流行の中心、西門町に位置する蜂大咖啡は、1956 年に台北で初めてアイスコーヒーを取り入れたカフェとして今なお残り続けています。通りに面したカウンターには年代物の設備が置かれ、それらを使って豆を挽きコーヒーを淹れています。その様子は通行人たちの興味を引き、店の前に並ぶ人たちを楽しませています。レトロな設備以外にもコーヒーの品質にもこだわり、12 種類のブレンドコーヒーを提供しています。

加えて、お店の前を通りかかると目に飛び込んでくるのが約 6 時間で 4 杯分のコーヒーしか作れない背の高いウォータードリッパーと入り口付近のショーケースの上に並ぶ魅力的なガラス製のクッキージャーです。

また、小さな通路沿いに並ぶこのお店は、台北にある他のお店と違いお客さんに時間制限を設けています。混雑時は 1 時間ほどで次のお客さんを入店させるといった配慮がなされています。メニューの中では有名なアイスコーヒーと伝統的なクルミクッキー、おばあさんの世代を思い出させる緑豆ケーキがおすすめです。



ダッチコーヒーと懐かしいクルミクッキーが看板メニューです。



フォンダーカーフェイ

蜂大咖啡



台北市万華区成都路 42 号



08:00 - 22:00



台湾の経済成長期から続くお店：

ミーフォンカーフェイ

3

蜜蜂咖啡

1950～1980年代は「台湾の奇跡」と呼ばれる急速な工業化と経済成長の時期でした。経済成長真っ只中の台湾においてコーヒーは地位の象徴であり、一日中カフェでコーヒーを味わえるということはビジネスがうまくいっている証拠でした。

1978年にオープンした蜜蜂咖啡の現オーナー蔡翠瑛（ツァイツィン）さんは「当時は株式市場に関する雑談をするお客さんがいて、店内にはタバコの匂いが漂い、BGMには日本の音楽が流れていました」と振り返ります。もともとこのお店は台北周辺に20店舗を展開する日本のフランチャイズ店でした。蔡さんが経営するお店は唯一現存する店舗です。座っておしゃべりをしたいという思いから作られたお店の雰囲気は、親切で居心地が良く、ゆっくりとした時間の流れを感じられます。オープン当初の写真を見ても、家具から小物まで1978年以来変わっておらず、台北の歴史の一部を現在に残しています。

コーヒーは特別にブレンドした豆を伝統的なサイフォン式スタイルで淹れています。2つのガラス容器を使ってコーヒーを抽出しますが、ボイルド式のように煮出すことはしません。他にも豚もも肉の蒸し煮、生卵入りのレモンジュースなどの有名なメニュー、ローカルなアーモンド茶を提供しています。蔡さんはお店の売却も考えているようなので、ぜひお早めにお店に足を運んでみて下さい。



特別に豆をブレンドした蜜蜂咖啡のハニーコーヒーは40年以上に渡り親しまれてきた台北人の味です。



ミーフォンカーフェイ

蜜蜂咖啡



台北市中正区青島東路3-2号



07:30 - 20:30 日曜定休



今風に路線変更したお店：

ラオシューカーフェイ

4

老樹咖啡

老樹咖啡はもともと台湾南部にありましたが、コーヒーの楽園である台北に移ってきました。店名は元朝時代の作家馬致遠（ばちえん）の詩が元になっています。また、コーヒー好きのオーナーが1984年に台北で支店を設立した際、幼少期を過ごした万華区にはたくさんの老木があったことを思い出し、台北支店はバロック調の家具と装飾でデザインし、居心地のいいリラックスした雰囲気を作り出しました。

台湾の大きな経済成長期である80年代に設立されたこのお店は、リラックスすることを目的とする以外に、著名なビジネスマンが商談のために利用していました。また、当時の台北の老舗カフェは西洋風のカフェよりも遅くまで営業していました。その理由はインターネットやスマートフォンが普及する以前の台北が、活気あるバーやコンサートホール、そしてカフェによって栄えていたからです。当時のビジネスマンたちは夕方のパーティーやお酒を飲んだ後にカフェを訪れ、一杯のコーヒーで酔いを覚ますと夜中までビジネスをしていました。今では午後11:30には閉店する老樹咖啡も当時は夜2時まで営業していました。

老樹咖啡は台北で最も高級なコーヒーショップの1つで、人気の高いオリジナルブレンドコーヒーは1杯NT\$300前後となっています。他にも少量のウィスキーを加えたアイリッシュコーヒーもおすすめです。また、他のカフェとは異なり厳選した豆の香りや味を妨げるメニューはほとんどありません。非常に人気のお店なので、コーヒーを飲みに行く際は先に予約をしましょう。



サイフォン式コーヒーで有名な老樹咖啡は新生南路にお店を開いて30年以上になりますが、今でも多くの台北人が足を運んでいます。



ラオシューカーフェイ

老樹咖啡



台北市中正区新生南路一段60号



10:00 - 23:30



5

東洋と西洋の融合：

ワンイーカーフェイ

王義咖啡



長年に渡り牛肉麵と食後のコーヒーを提供してきた王義咖啡は地元の人から非常に愛されています。(写真／Taiwan Scene)

王義咖啡は30年以上にわたり、台北のコーヒートレンドに合わせて伝統を守り続けてきました。このお店はとてもユニークで、ローストコーヒーに合わせて牛肉麵などの伝統的な台湾料理を提供しています。定番料理の牛肉麵は、香ばしいスープととろ火で煮込んだ牛肉、野菜、中華麵で作られます。また、オーナーの柔軟な発想により、スープにスパイシーな香辛料を加えることで味に変化をつけています。西洋人は食事にここまでの配慮はしないかもしれませんが、ローカル料理と上質なコーヒーの組み合わせは、新旧の融合が続くグルメ都市台北ではうまく機能しています。その証拠に、牛肉麵は早ければお昼前には売り切れてしまいます。コーヒーは混雑時でも売り切れることはなく、たいていは食後に飲まれます。中には甘い蜂蜜ケーキと一緒にコーヒーを楽しむ人もいます。

王義咖啡は台湾市場での高い評価に誇りを持っています。このお店は世界中から仕入れた高品質な豆を近代的な設備で挽いていますが、マーケティングは口コミだけで、Google map 以外の情報は公開していません。オーナーはこのやり方を気に入っていて、インタビューなどの取材は断っています。このように高い品質と親しみやすさがあれば、台北のような近代都市でもこうしたお店が生き残れることを証明しています。

流行りのカフェは西洋風や現代的な要素で成功していますが、今回紹介した5軒のお店は原点を忠実に守り、独自のコーヒーの伝統と台北の歴史の一部を残し続けています。^①



ワンイーカーフェイ

王義咖啡



台北市中山区中山北路一段53巷4号



09:00 - 16:00 土日定休

桃園国際空港から台北市までのアクセス台北市と桃園国際空港の交通手段には、スピーディーな桃園国際空港 MRT、安くて便利な空港バス、安全で快適なタクシー、専門的で質の高い送迎サービスがあります。いずれも所要時間と料金が異なりますので、必要に応じてお選びください。

旅のお役立ち情報

① 空港交通手段

タクシー

乗り場：第一ターミナルの到着ロビーの西側、第二ターミナルの到着ロビーの西側

片道料金：メーターの料金＋高速道路料金。台北市内まで約 NT\$1,100 元

第一ターミナルタクシーサービスセンター：電話：(03)398-2832

第二ターミナルタクシーサービスセンター：電話：(03)398-3599

桃園国際空港 MRT

乗車駅：A12 機場第一航廈駅と A13 機場第二航廈駅

片道料金：NT\$150 元

営業時間：（実際の運行時間は現場でご確認ください）

台北行 → 第 1,2 ターミナル 始発列車 06:00 / 終発列車 23:37

第 1 ターミナル → 台北行 始発列車 05:59 / 終発列車 23:37

第 2 ターミナル → 台北行 始発列車 05:57 / 終発列車 23:35

空港バス

乗り場：第 1 ターミナル乗車場所：B1 階入国バス乗り場、第 2 ターミナル乗車場所：1 階入国ロビー東側屋外通路乗り場

運行会社：国光客運、長栄巴士、大有巴士の 3 社

片道料金：NT\$65 元～NT\$145 元

所要時間：路線によって約 40 分～60 分（大有バスは停車バス停が多いため約 60 分～90 分）

運行間隔：約 15 分～30 分間隔

台北 MRT

営業時間：06:00～24:00

24 時間お客様専用ダイヤル：(02)218-12345

切符：



IC トークン (片道切符)
NT\$20-65



MRT 1 デイパス
NT\$150



24時間バス
NT\$180



48時間バス
NT\$280



72時間バス
NT\$380

電子マネー：

電子マネーとして、チャージするだけで MRT (都市交通システム) など公共交通機関やコンビニエンスストア、特約商店での小額決済ができます。シェアサイクルの YouBike にも使えます。購入は MRT やコンビニなど取扱店です。



EasyCard



iPASS

台北基おもしろカード：

12 の素敵な観光地＋交通機関乗り放題の「無限周遊カード」、交通機関乗り放題の「交通周遊カード」、「観光スポット周遊カード」の 3 種類。有効期限内に台北市と新北市、基隆市を思う存分遊ぶことができます。



無限周遊カード
有効期間は
1 日 / 2 日 / 3 日券
NT\$1,200/1,600/1,900 元



観光スポット周遊カード
2 日 / 3 日 / 4 日券
NT\$650/850/1,050 元



交通周遊カード
有効期間は
1 日 / 2 日 / 3 日 / 5 日 /
猫空ロープウェイ 1 日券
NT\$180/310/440/700/350 元

旅のインフォメーション

交通部観光局 24 時間対応、無料の旅行情報ホットライン：0800-011-765

24 時間対応、無料の外国人在台生活相談：0800-024-111

北市民ホットライン：1999 (台北市外 02-2720-8889)



台北市ダブルデック観光バス
TEL: (02)8791-6557 EXT. 30



ツーリストサービスセンター
はこちらへ

10/5 永樂廣場で会いましょう

1930's モダン大稻埕



看 パフォーマンス 聴 セミナー 作 クラフト 遊 ウォーク

監督者: **Taiwan**
THE HEART OF ASIA

交通部觀光局
Tourism Bureau, MOTC



主催者: **TAIPEI** 觀光傳播局
Department of Information and Tourism

共催者:



臺北市大同區公所
Daotung District Office, Taipei City



鄭雨賢開放博物館
數位典藏館
OPEN MUSEUM

廣告

taïpei

10/05

6PM

06

6AM

白晝之夜

大直
ダーズー

內湖
ネイフー

nuit
blanche

www.nuitblanchetaipei.info



Hosted by
指導機關



Organized by
主催機關

台北市文化局

Main Partner
共催機關

Bureau
Français
de Taipei
法國
在台協會

広告